

令和元年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



令和元年10月
鹿児島県教育委員会



市町村別の調査結果

正答率分布グラフについて

- ※ グラフは、児童生徒の正答率分布グラフです。
- ※ 横軸は、正答率を5段階に分けて示しています。
1 : 0%~20%未満, 2 : 20%~40%未満, 3 : 40%~60%未満,
4 : 60%~80%未満, 5 : 80%~100%
- ※ 縦軸は、各段階の児童生徒数の割合を示しています。
- ※ ただし、正答者数を四捨五入して割合（整数値）としているため、若干の誤差が生じています。

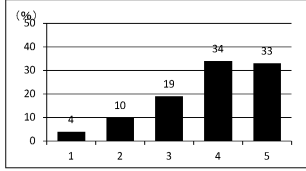
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

鹿児島市教育委員会

【小学校】

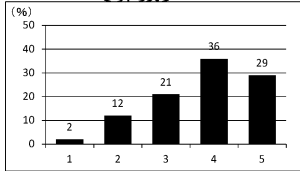
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、5の段階の割合は全国よりも高い状況が見られる。4、5の段階の割合は67%で、1、2、3段階の割合は33%である。個別指導を行い、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
・情報を相手に分かりやすく伝えるために工夫された記述の仕方を理解することや、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。

〔算数〕

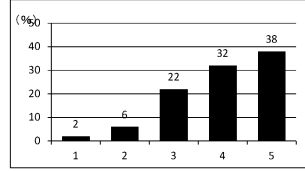


〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は65%で、4段階の割合が最も高い。2、3段階の割合は33%で、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
・示された除法の式の意味を理解することや二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

【中学校】

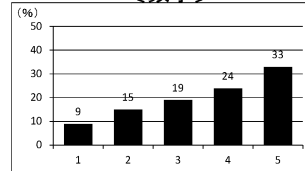
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は70%で、1、2、3段階の割合は30%である。個別指導を行い下位層を更に引き上げる必要がある。
・話合いの話題や方向を捉えることや、相手に分かりやすく伝わる表現について理解することに課題が見られる。

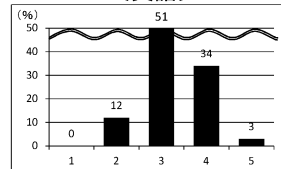
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合は57%で、5段階の割合が最も高い。2、3段階の割合は34%で、中下位層を更に引き上げていく必要がある。
・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解やグラフ上の2点のy座標の差について、事象に即して解釈することに課題が見られる。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。4、5段階の割合が37%で、3の段階51%よりも低く、中位層を引き上げるにより、上位層を増やす必要がある。
・情報を正確に聞き取ることや、与えられた情報に基づいて正確な英文で表現すること、考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題が見られる。

【改善策】

以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として引き続き取り組んでいく。

○ 諸学力検査結果の課題や対策を冊子等にまとめ、各学校へ情報提供し、これらを基に管理職研修会や校内研修会等、各種研修会で共通した指導の実施

○ 校内研修や研修会等に指導主事を積極的に派遣し、以下の重点に基づく指導・助言

ア 各学力調査問題の研究 イ 各学校での課題に応じた共通実践事項の設定

ウ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 エ 習得状況の見届けの徹底

○ 「かこしま学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題」等の積極的な活用の推進

○ 質問紙調査の結果と学力調査結果の相関を分析し、学力向上に生かすための方策の検討

また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

〔小学校〕(国語科) 相手や目的に応じて、適切な記述の仕方を考えたり、図表やグラフを用いて効果的に書いたりする活動の充実

〔小学校〕(算数科) 資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりする活動の充実

〔中学校〕(国語科) 実際に記録を取ったり、話合いの途中で、話合いの仕方を見直しを進めたりする活動の充実

〔中学校〕(数学科) 与えられた情報を読み、事象の結果を数学的に解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりする活動の充実

〔中学校〕(英語科) 読んだり聞いたりした情報の大切な部分を正確に理解し、自らの考えを整理してまとまりのある文章で表現する活動の充実

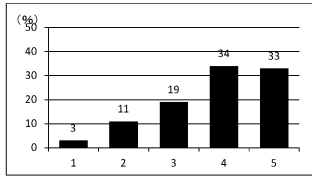
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

日置市教育委員会

【小学校】

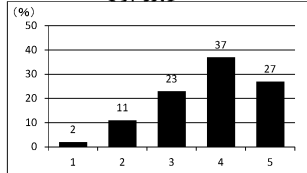
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、全国平均に比べ、上位層は多いが、個人差が大きい傾向にあるのが課題である。
- ・ 繰り返し出題される漢字については、正答率が高かったが、その他の漢字については、正答率が全国平均に届かなかった。
- ・ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむことに課題がある。

〔算数〕

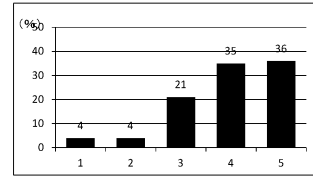


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、全国平均に比べ、上位層が少なく、上位層をいかに伸ばしていくかが課題である。
- ・ 図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することに課題がある。
- ・ グラフや資料の特徴、傾向を関連付けて増減を判断し、その理由を記述することに課題がある。
- ・ 示された除法の式の意味を理解することに課題がある。

【中学校】

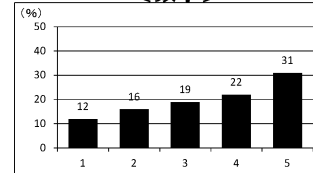
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、1・2段階が8%と少なく、基礎的・基本的な事項については、指導の充実が図られている。活用能力も向上している。
- ・ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することに課題がある。
- ・ 相手に分かりやすく伝える表現について理解したり、話し合いの話題や方向を捉えて考えをもったりすることに課題がある。

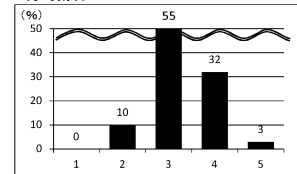
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、上位層も多いが、下位層も多く、個人差が大きい。まずは基礎的・基本的な事項について確実な定着を図らせることが課題である。
- ・ 連立二元一次方程式のような基本的な計算でつまづいている生徒が全体の34%と多く、大きな課題である。
- ・ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件や反例の意味が十分理解できていないことに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、1の段階は0%であるが5の段階が3%と少なく、上位層をいかに伸ばしていくかが課題である。
- ・ 日常会話について、情報を正確に聞き取ることに課題がある。
- ・ 聞いて把握した内容について、適切に応じる(自分の考えを英文で表現すること)に課題があり、無回答率が全国に比べて高い。

【改善策】

- 「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を活用した「今週の1問」への継続的な取組や見届けを行わせる。
- 「今週の1問」を活用したグループでの学び合い活動を、授業の中に取り入れ、自力解決できる子どもの思考過程を他の子どもに広げさせるなど、授業改善を図らせる。
- 質問紙をもとに作成した「グラフ作成ソフト」により、自身の授業を客観的に振り返らせることで授業改善を図らせたり、管理職による指導資料として効果的に活用させたりする。
- 「学びの羅針盤」や「のびくひおきっ子 II リーフレット」を積極的に活用し、実践をとおした校内研修の充実を図らせる。
- 中学校英語教員を対象に、今後、ALTを活用した学習会を開き、英検準1級レベルの英語力を身に付けさせ、準1級取得者を50%以上にさせる。また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたり、読んだりする学習活動
(算数科) グラフや表などからその特徴や傾向などを整理して考察したり、比較・関連付けながら説明したりする学習活動
- 〔中学校〕(国語科) 目的に応じ、文の構成を考えながら文章にまとめたり、根拠を明確にして自分の考えを書いたり、説明したりする学習活動
(数学科) 思考の過程を全体で共有しながら振り返ったり、数学的な表現を用い、根拠を明確にして説明したりする学習活動
(英語科) 日常会話等について情報を正確に聞き取らせるリスニングを効果的に取り入れたり、自分の考えを既習の文法を用いて簡潔に表現する学習活動

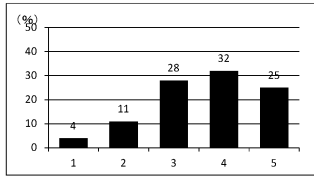
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

いちき串木野市教育委員会

【小学校】

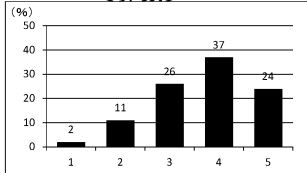
〔国語〕



〈課題〉

○ 5段階の分布状況について、3から5の段階の占める割合は、全体の85%で、1から2の段階の占める割合は、全体の15%である。このことから、概ね定着が図られている。
○ 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」問題の正答率が19%と極端に落ち込んでいた。
○ 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」等の問題については、正答率が70%を超えており、高い結果が出ていた。

〔算数〕

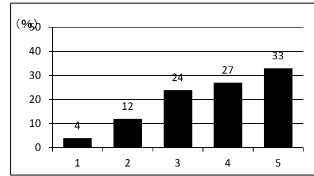


〈課題〉

○ 5段階の分布状況について、3から5の段階の占める割合は、全体の87%で、1から2の段階の占める割合は、全体の13%である。このことから、概ね定着が図られている。
○ 「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述できる」問題は、正答率が31%と落ち込みが目立った。
○ 台形の問題やグラフから分かることを読み取る問題は、正答率が90%を超えており、非常に高い結果が出ている。

【中学校】

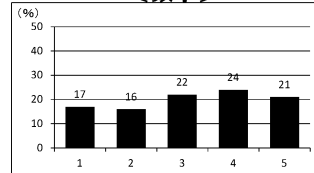
〔国語〕



〈課題〉

○ 5段階の分布状況について、3から5の段階の占める割合は、全体の84%で、1から2の段階の占める割合は、全体の16%である。このことから、概ね定着が図られている。
○ 極端に落ち込んだ問題がなく、最低でも正答率が51%であった。
○ 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ問題の正答率は89%と一番高い結果であった。

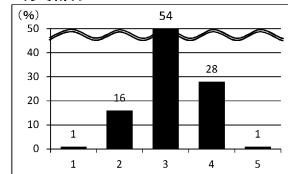
〔数学〕



〈課題〉

○ 5段階の分布状況について、3から5の段階の占める割合は、全体の67%で、1から2の段階の占める割合は、全体の33%である。このことから、下位層を上位層へ引き上げることが課題である。
○ 領域からみると、関数の落ち込みが非常に大きい。また、関数に関する「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題や「反比例の表から文字式に表す」問題の正答率が、2割程度と大きな課題であると言える。
○ 正答率が8割を超えている問題が1問しかなかった。

〔英語〕



〈課題〉

○ 5段階の分布状況について、4から5の段階の占める割合は、全体の29%で、3の段階の占める割合は、全体の54%、1から2の段階の占める割合は、17%である。このことから、平均的な理解の生徒がほとんどであることが分かる。
○ 正答率1割以下の問題が2問あった。「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」「ある問題に対して自分の考えを書く」の問題で、共に活用に関する問題であった。
○ また、記述する問題への対応ができていないので、今後は対応の方法を考えることも課題である。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上策の重点として取り組んでいく。
- 〔全 体〕(各教科)・ 各学校でしっかり学力分析を行い、児童生徒に足りない力を共通理解した上で、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を図る。
・ 児童生徒に足りない力を付けるために、1単位時間の授業の中で、その力を高めるための時間確保を確実にし、学力の向上を図る。
- 〔小学校〕(国語科)・ 授業の中で書く時間を設定し、児童生徒に書かせ、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」力を育成する。
・ 「書くこと」を高めるために、他教科や家庭学習との連携を図り、書かせる時間を多く設定し、書く力を育成する。
(算数科)・ 「数と計算」「量と測定」が大きな課題なので、関係する単元を教育課程に明記し、意識して授業を行い、力を付ける。
・ 市教委から出す「今週の1問」で意図的に、「数と計算」「量と測定」に関する問題を出題し、授業等で確実にし、力を付ける。
- 〔中学校〕(国語科)・ 内容を整理して書いたり、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ時間を授業の中で設定し、力を付ける。
・ 必要に応じて質問したり、相手に的確に伝えたりできるように対話や交流を取り入れた学習活動の充実させ、力を付ける。
(数学科)・ 「関数」領域に関する単元を教育課程に明記し、意識して授業を行い、力を付ける。
・ 市教委から出す「今週の1問」で意図的に、「関数」に関する問題を出題し、授業等で確実にし、力を付ける。
(英語科)・ 記述に慣れさせるために、思考・判断を問う発問を取り入れた1単位時間の学習の流れを工夫し、力を付ける。
・ 「書くことが」課題なので、授業中に確実に自分の考えを書かせる活動等を取り入れ、生徒の書く力を高める。

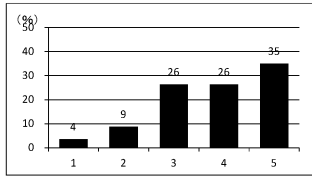
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

枕崎市教育委員会

【小学校】

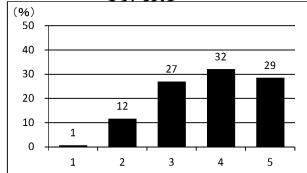
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5段階は61%であり、1、2段階は13%と上位層が多く、下位層が少ない。中間層が26%と県、全国と比較して多い。中間層を上位層へ伸ばす必要がある。
・目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたり、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書いたりすることに課題がある。

〔算数〕

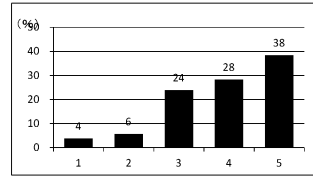


〈課題〉

・5段階の状況については、4、5段階は61%であり、1、2段階は、13%である。県、全国と比較して上位層が少なく、下位層も少ない。27%の中間層を上位層へ伸ばす必要がある。
・複数の資料の特徴や傾向を関連付けることで見いだすことができる事柄から、数量の大小を判断して、その判断の理由を説明することや計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を表現することに課題がある。

【中学校】

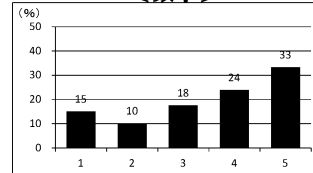
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5段階は66%であり、1、2段階は10%である。県、全国とほぼ同じ分布だが、下位層を中間層へ引き上げると共に、中間層を上位層へ伸ばす必要がある。
・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

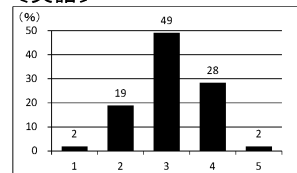
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5段階は57%であるが、1、2段階が25%である。県、全国とほぼ同じ分布だが、下位層を中間層へ引き上げる必要がある。
・与えられた情報を読み、数学的に表現したことを事象に即して解釈することや資料の傾向を読み取り、批判的に考察し判断したことの根拠を、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、4、5段階は30%であり、1、2段階は21%である。県、全国と比較して上位層が少なく、下位層が多い。下位層、中位層を伸ばしていく必要がある。
・まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解したり、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえたりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 校内研究授業に、本市の指導主事が参加し、継続的な授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 市教科部会において、実践を基にした協議や授業を通じた研修を実施し、教員の指導力向上を図る。
- 分析の視点(経年変化、誤答分析、質問紙結果との相関、個別的分析等)を学校に示し、課題の焦点化を図らせ、授業改善につながる指導・助言を行う。
- 諸学力検査結果を小・中学校間で情報を共有させ、小中が連携した改善策を講じさせる。
- 「かごしま学力向上支援Webシステム」、鹿児島学習定着度調査や全国学力・学習状況調査の過去問題の活用を徹底を図ると共に、定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させたり、指導計画の見直しをしたりするなどの指導を行う。
- 授業と運動した効果的な宿題の在り方について教職員に対して共通理解させ、家庭学習の充実を図らせる。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にして書くことができるような学習を充実させる。
(算数科)資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したり表現したりする学習を充実させる。

〔中学校〕(国語科)文章の展開に即し情報を整理し内容を捉えたり、話合いの話題や方向を捉え考えをまとめたりする学習を充実させる。
(数学科)事象を数学的に解釈した問題解決方法や資料の傾向を捉えたことを数学的な表現で説明する学習を充実させる。
(英語科)まとまりのある文章を読み大切な部分を理解したり、文と文のつながりに注意し、文章を書いたりする学習を充実させる。

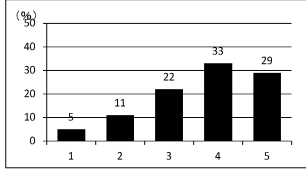
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

指宿市教育委員会

【小学校】

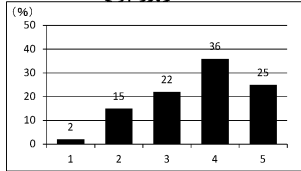
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4・5段階は62%である。基礎的・基本的な知識・技能は身に付きつつある。
- ・領域別では「書くこと」が一番低く、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。
- ・目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことに依然として課題が見られる。

〔算数〕

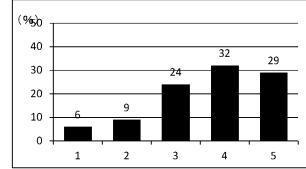


〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、4・5段階は61%であるが、基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、それを活用する力の向上は依然として課題となっている。
- ・単位数あたりの大きさについての理解が不十分である。
- ・問題形式では、「記述式」の問題の正答率が低いことから、資料から読み取ったことを関連付けて判断した理由を、言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

【中学校】

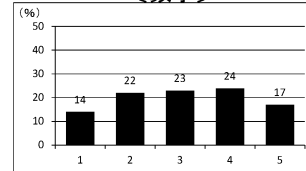
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4・5段階は61%で基礎的・基本的な知識・技能は身に付きつつあるが、それを活用する力が十分でなく、依然として課題が見られる。
- ・「読むこと」が特に低いことから、文章の展開に即して情報を整理して内容を捉えることに課題がある生徒が多い。また、記述式の問題の無解答率が高く、自分の考えをまとめて記述することに慣れていない生徒が多く、課題が継続している。

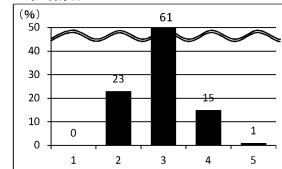
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、1～3段階が59%、4・5段階は41%であり、基礎的・基本的な知識・技能及び活用する力ともに依然として定着していない。
- ・反比例の表からXとYの関係を式で表すことや、連立二元一次方程式の理解が不十分である。
- ・問題解決の方法を数学的に説明したり、判断の理由を筋道立てて説明したりする記述式については、無解答率が高い。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、1～3段階が84%、4・5段階は16%であり、基礎的・基本的な知識・技能及び活用する力ともに十分定着していない。
- ・文の中で適切に接続詞を用いたり、与えられた情報に基づいて現在形や過去形の肯定文・疑問文・否定文を書くことに課題がある。
- ・英文で書かれた内容を正確に読み取ることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 市内全中学校を学力向上推進校として指定し、学力向上に向けた指導主事の定期的な学校訪問を行う。また、学力向上に向けた取組(Webシステム単元別評価問題、過去の調査問題の活用、個別指導の徹底)について指導及び見届けを徹底する。
- 各学校の「学力向上プラン」をとおして、課題解決に向けた具体的な目標や実践計画を基に、PDCAサイクルで年間を通した取組を支援する。
- 各学校では「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を十分図るために、「こんいち(今週の間)」を配信し、取組状況についての見届けを徹底する。
- 学校の依頼に応じて指導主事を派遣し、「いぶすき授業ポイント10」の定着を図る普段の授業等の課題解決に向けた指導を行う(指導主事ワーク派遣)。
- 指宿市授業力向上事業(ITPいぶすきのたまはこプロジェクト)による「子供ができる・分かる授業づくり」の推進を図る。
- 「いぶすき授業力アップ」や「学びの羅針盤」を校内研修会等で積極的に活用するよう指導し、活用状況について見届けを徹底する。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)目的や意図に応じて、自分の考えを文章にまとめ、発表し合う活動の充実 過去問等を活用した演習トレーニング
(算数科)授業終末時の振り返る時間の確実な設定と、学習定着状況の見届けの徹底 過去問等を活用した演習トレーニング

〔中学校〕(国語科)目的や意図に応じて必要な情報を収集し、根拠を明確にして自分の考えを記述する学習の充実及び過去問等を活用した演習トレーニング
(数学科)授業終末時の振り返る時間の確実な設定と、学習定着状況の見届けの徹底及び過去問等を活用した演習トレーニング
(英語科)「話す・聞く・読む・書く」活動を通して、英語の基本的な語や文法事項を定着する学習の充実及び過去問等を活用した演習トレーニング

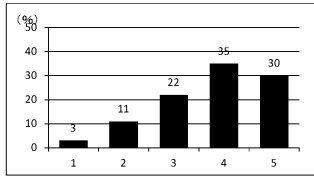
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南さつま市教育委員会

【小学校】

〔国語〕

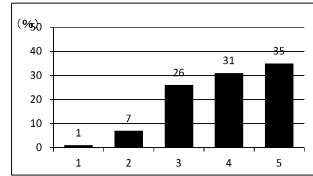


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4・5段階は65%であった。中上位層の活用力をさらに高め、下位層においては基礎的・基本的事項の確実な定着を図る必要がある。
・「読む能力」に関して、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読むことに課題がある。

【中学校】

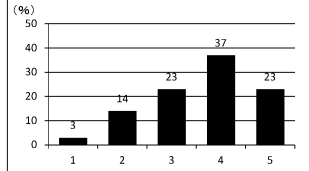
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4・5段階は66%であった。中上位層の活用力をさらに高め、下位層においては基礎的・基本的事項の確実な定着を図る必要がある。
・「読む能力」に関して、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。

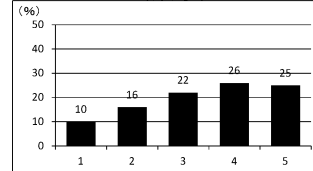
〔算数〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、分布のピークは4段階にある。中上位層の活用力をさらに高め、下位層においては、特に基礎的・基本的事項の確実な定着を図る必要がある。
・「数学的な考え方」に関して、解の求め方(示された図形の面積の求め方など)の説明を記述することに課題がある。

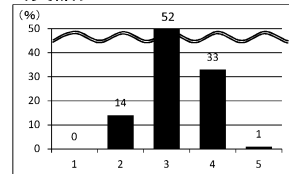
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、3・4・5段階に同程度に分布している。また、1・2段階が4分の1を超えており、全体的に知識及び活用力の定着を図る必要がある。
・「数学的な技能」に関して、簡単な計算(連立二元一次方程式)を確実に解くことができない課題がある。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、上位層が少ない。上位層を伸ばすとともに、中下位層の学力を高め、4・5段階の割合を増やし、2段階を減らす必要がある。
・英語を聞いて、要点や概要を捉える学習活動が不足しており、英語による情報を正確に聞き取ることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○各学校に調査結果の詳細な分析及び改善策の検討を行わせる。改善策に係る取組は年間指導計画に位置付けさせ、確実に実践と見届けを行うよう指導する。
○各学校に「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題などの良問を継続的に活用するよう指導する。各学校の取組を充実させるために、市教委による活用の仕組み(全市での共通実践)を整え、各学校の進捗状況について定期的な見届けを行う。
○学校訪問や校内研修、学力向上推進委員会等の機会を捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に係る指導を行う。「ねらいを明確にした対話活動の在り方」や「書く活動を重視した指導の在り方」など授業改善の視点を具体的に指導し、教員の指導力の向上を図る。また、学校の実態に応じて、資料提供や好結果を収めている学校的事例紹介などを積極的に行う。
〔小学校〕(国語科) 目的や相手を意識して読むことを明確に位置付けた学習活動を繰り返す。
(算数科) 問題の解き方や考え方を自分の言葉で記述させたり、互いに説明させたりする活動を重視する。
〔中学校〕(国語科) 文章の構成を捉えさせ、段落の内容を説明するために必要な語と文を明確にさせた上で、段落の要旨をまとめる指導を行う。
(数学科) 問題解決的な授業を展開する中で、解の求め方を相互に説明する活動を取り入れるなど、考え方を表現する指導を重視する。
(英語科) 本時のねらいに応じて「聞く・話す・読む・書く」活動の量を十分に確保し、形成的評価を踏まえた補充指導を行う。

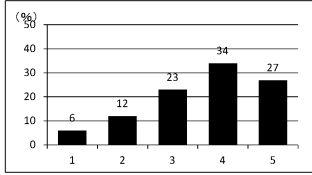
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南九州市教育委員会

【小学校】

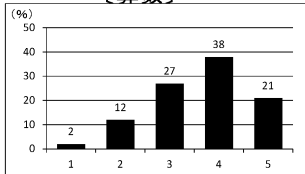
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の状況については、60%が4, 5段階である。1, 2段階が18%あり、下位層に対する補充指導が急務である。
・「書くこと」について、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことに課題がある。

〔算数〕

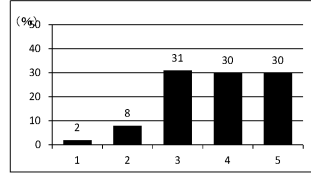


〈課題〉

・5段階の状況については、59%が4, 5段階であり、中位層及び上位層を伸ばす必要がある。また1, 2段階が14%あり、補充指導が急務である。
・「量と測定」で示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明をする問題の正答率が特に低かった。

【中学校】

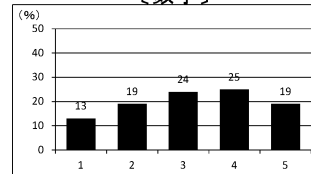
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の状況については、60%が4, 5段階である。3段階の割合が多いことから中位層を伸ばす必要がある。また、1, 2段階が10%あり、下位層に対する補充指導が急務である。
・「書くこと」について、自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くことはできるが、自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすく書くことに課題がある。

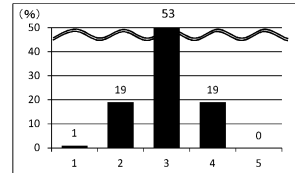
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の状況については、44%が4, 5段階である。また1, 2段階も32%あり、補充指導が急務である。
・「図形」について結論が成り立つための前提を捉え、新たな事柄を見出し説明することに課題がある。また、「関数」について反比例の表からXとYの関係を式で表すこと、グラフ上の2点のY座標の差についての解釈や数学的に説明することに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の状況については、19%が4, 5段階であり、学力が十分に定着しているとは言えない状況である。3段階が53%、1, 2段階が20%となっており、上位層、下位層それぞれを伸ばす必要がある。
・「読むこと」についてまとまりのある文章を読んで書き手が最も伝えたい大切なことを捉えることに課題がある。
・「書くこと」については、与えられたテーマについて考えを整理し、相手に分かるように伝えることに課題がある。

【改善策】

○PDCAサイクルによる学力向上の具体策が実践されている今後も継続して、各学校に対し適宜、指導・助言を行うとともに、特に、以下に示す事項については、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

○ 夏季休業中に臨時の校長研修会を開催し、各学校の分析結果をもとに、本市の全小・中学校で取り組む共通実践事項を決めた。

1. 全ての学校において、「かごしま学力向上Webシステム」の問題や全国学力・学習状況調査・鹿児島学習定着度調査の過去問など、良問に計画的に取り組ませるようにする。児童生徒ができるようになるまで、繰り返し活用する。

2. 中学校では、中間調査や期末調査などの問題について、高校入試の問題やかごしま学力向上Webシステムの問題等を参考に、思考力・表現力を問う問題を取り入れるとともに、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を進める。

○ 「学びの組織活性化」推進プロジェクトにおける実践校やモデル校、研究授業を行う学校に対して指導主事が指導・助言を行う。さらに各学校に対し、取組状況の見届けを確実に。また、以下の事項を、管理職研修会や研究授業等で指導・助言を行う。

〔小学校〕(国語科) 情報を相手に分かりやすく伝えるために記述を工夫する学習や自分の考えの理由を明確にして書く活動の指導の充実

(算数科) 問題文をしっかり読み取り、筋道立てて考える力を育てる指導や複数の資料を関連付けて考えさせる指導の充実

〔中学校〕(国語科) 目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめる学習や目的や意図に応じて書く活動における指導の充実

(数学科) 系統性の強い教科であることから、生徒一人一人のつまづきに応じた手立ての工夫や補充指導の徹底

(英語科) 「読むこと」については要旨を捉える力の育成、「書くこと」については自分の考えを相手に分かりやすく伝える力の育成

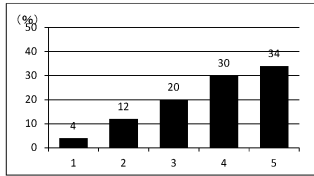
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

阿久根市教育委員会

【小学校】

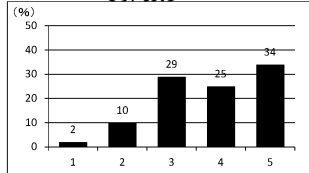
〔国語〕



〈課題〉

- 5段階の分布では、5の段階が最も多い結果となったが、1、2の段階の児童を重点的に、基礎・基本の定着や個に応じたきめ細やかな指導の必要がある。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力や、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む力に課題がある。

〔算数〕

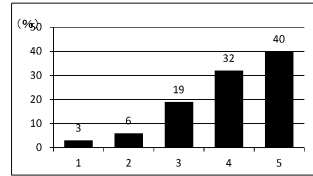


〈課題〉

- 5の段階が最も多い結果となったが、3と5の段階に分かれ、4の段階の児童が少ない。1、2の段階の児童を重点的に、個に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、発展的な学習について取り組む必要がある。
- 領域では、数と計算領域や数量関係に、観点別では、数学的な考え方に課題がある。主なものとして、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて考えることにみられる。

【中学校】

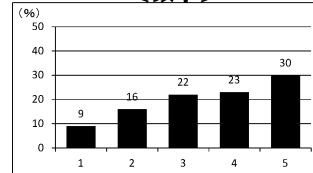
〔国語〕



〈課題〉

- 5段階の分布では、5の段階が最も多い結果となったが、1、2の段階の生徒を重点的に、基礎・基本の定着や個に応じた指導の必要がある。
- 書くことに課題がある。特に、書いた文を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する推敲に関することへの課題がみられる。

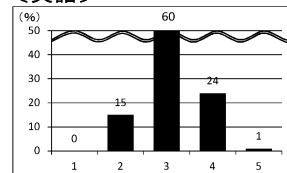
〔数学〕



〈課題〉

- 5の段階が最も多い結果となったが、1や2の段階の生徒の割合も多い。基礎・基本定着の時間の設定等、定着への改善の必要がある。
- 領域では、関数、資料の活用に、観点別では、数学的な見方や考え方、数学的な技能に課題がある。主なものとして、表から式を表すなどの技能の定着や、問題解決の方法を説明するなどの記述である。

〔英語〕



〈課題〉

- 3の段階が最も多い結果となったが、今後は、発展的な学習の取組を継続するとともに、2の段階にある生徒の基礎・基本の定着を個に応じて行う工夫が課題である。
- 領域では、読むこと、観点別では、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解に課題がある。主なものとして、正確な聞き取りや読み取り、基礎的・基本的事項の正しい記述があげられる。

【改善策】

1 課題の分析, 考察

(1) 7月末の結果を受けて、各学校へ分析シートを配布し、国語、算数・数学、英語の全体傾向、観点別傾向を分析するとともに、結果発表後の学校での取組計画を提出させる。

2 各学校への継続的な指導

(1) 課題のある単元(題材)への取組状況把握

・ かしま学力向上支援Webシステムの活用 ・ 全校体制での研修, 具体策の見届け

(2) 研究授業, 授業研究における指導助言

特に、次の点について対応していく。児童生徒の考えを引き出す授業展開や、基礎的・基本的事項の徹底について重点的に指導する。

〔小学校〕(国語科) 目的や意図のある言語活動の設定, 書く活動の充実

(算数科) 数量関係, 量と測定, 数と計算領域の重点化, 技能の定着と, 思考力を問う問題への継続的に取り組む。

〔中学校〕(国語科) 書くことの指導の工夫を図る。特に、推敲場面における主体的対話的な授業に取り組む。

(数学科) 関数や資料の活用領域を重点的に取り組む。技能の定着及び数学的な見方・考え方を図るための授業に取り組む。

(英語科) 聞くこと, 読むことの領域の定着に努める。正確に聞くことやまとまりのある文の読み取り, 書くための基本的事項の徹底を図る。

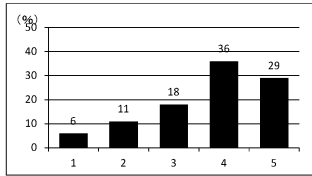
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

出水市教育委員会

【小学校】

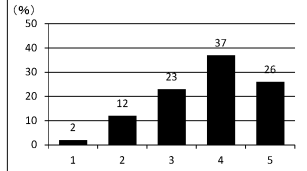
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布について、4、5段階は、65%である。「知識」に関する問題についてはよくできているが、「活用」に関する問題については、十分に定着しているとは言えない。
・漢字や語彙力、話す・聞く能力などの基礎・基本の問題はよくできている。
・無解答は少ないものの、条件や、目的や意図に応じて「書くこと」(記述問題)に課題がある。

〔算数〕

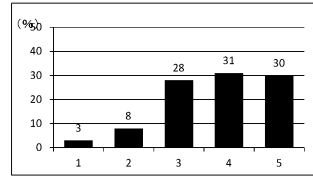


〈課題〉

・5段階の分布について、4、5段階は、63%である。「活用」に関する問題に課題がある。
・整数と小数の計算や、台形の理解など知識・理解に関する部分ではできている。
・計算の工夫や、数学的な考え方を必要とする記述式問題に課題がある。

【中学校】

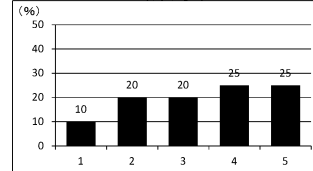
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布について、4、5段階は、61%である。「知識」に関する問題及び「活用」に関する問題の通過率に大きな差異はない。
・自分の考えを書いたり、条件に沿って書くことなどの記述問題は、無解答も少なく、よくできている。
・話す・聞く能力については、相手に分かりやすく伝える表現や話題や方向を考えて自分の考えをもつことなどに課題がある。

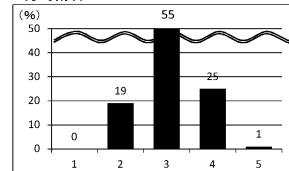
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布について、4、5段階は、50%で、「知識」に関する問題については、できているが、「活用」に関する問題に課題がある。
・資料の傾向を正確に捉え、数学的な説明をする記述の問題は、できている。
・連立二元一次方程式や関数、確率などの数学的な技能が必要とされる問題に課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布について、4、5段階は、26%である。「知識」に関する問題に課題がある。
・「聞くこと」については、日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができている。
・基礎の部分の「書くこと」に課題がある。特に、適切な接続詞を使ったり、三人称単数現在時制の肯定文の作成をしたりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実現するため、対話によって知識や内容がつながるようなモデル授業づくりを行い、各学校に浸透させる。また、ゴールイメージを明確にした授業づくりやチャレンジ15分により、定着の見届けを確実にに行わせる。
- 市主催の研修会や教科部会、教材開発委員会、全国学力・学習状況調査の問題を取り扱った研修を実施し、授業と各種学力調査問題が一体となった授業づくりができるよう支援する。
- 今週の一問を毎週配信し、かごしま学力向上支援Webシステムや各種学力調査の問題に取り組み、確実に見届けを行う。
- 自学自習する力の習慣づくりや、予習、復習など授業とつながる家庭学習を目指すために、保護者と連携した家庭学習の充実を図らせる。

その他以下の点を、特に改善を要する内容とし、管理職研修会や学力向上プロジェクト委員会で指導し、取り組ませる。

- 〔小学校〕(国語科) 必要な情報を複数の資料やグラフから捉えさせたり、根拠や叙述を明確にした考えを書かせたりする。
- 〔小学校〕(算数科) 子供の考えを比較、分類、関連付けさせながら、対話を構造化し、言葉や式を用いて記述ができるようにする。
- 〔中学校〕(国語科) 自分の考えを書くことを授業に位置付け、段落の役割や文章の構成を常に意識させて表現の効果について考えさせる。
- 〔中学校〕(数学科) 基礎・基本の定着を確実に図らせるとともに、活用する問題では、その考えの根拠・理由を説明させる。
- 〔中学校〕(英語科) オールイングリッシュによる授業展開をしながら、表現力を身に付けさせる。また、基礎・基本を確実に定着させる時間を確保する。

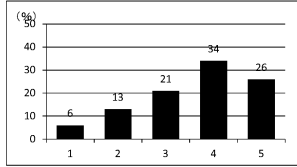
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

薩摩川内市教育委員会

【小学校】

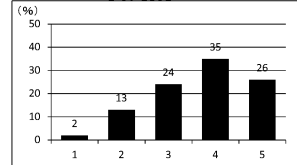
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、国語は段階3、4の割合が55%であり、この中間層をどのように伸ばしていくかが課題と言える。
- ・事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題がある。
- ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかみとることに課題がある。

〔算数〕

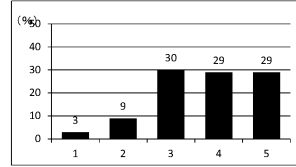


〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、算数は段階3、4の割合が59%であり、この中間層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それを関連付けて、論理的に考察し、判断の理由について根拠を明確にして言葉や数を用いて記述することに課題がある。

【中学校】

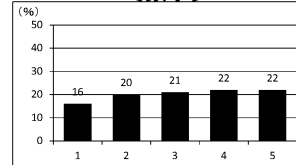
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、段階3、4の割合が59%であり、この中間層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果を考えたりすることに課題がある。
- ・相手に分かりやすく伝える表現について考えることに課題がある。

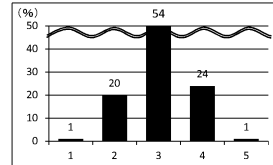
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分析状況から散らばりが広く、段階1、2の割合が36%であり、この下位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・連立二元方程式を解くなど、基礎的な計算力に課題がある。
- ・関数を用いて事象を捉え考察し、反比例の表から関係式を表すことに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、段階4、5が25%であることから、上位層を更に増やしていく取組が必要である。
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりに注意して、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
- ・日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ったり、聞き取ったりする力が不十分である。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 各種テストの100点チャレンジ(満点をとれるまで何度も繰り返し行う取組)の徹底
 - 「かごしま学力向上支援Webシステム」や過去問等の活用を徹底する。
 - ・管理職研修会で、「かごしま学力向上支援Webシステム」評価問題等を学校全体で取り組むための具体策を協議し、チーム学校として組織的に取り組む方策、年間計画の中に具体的に位置付け、計画的に実施、確実に見届けできるようにする。
- また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で確実に取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) 論理的な思考力をつけるために授業の中で、自分の立場を端的に述べた後に、必ず理由も加える習慣を低学年からつけられるように、教師が必ず「なぜそう考えたのか。」「どこからどう考えたのか。」などと問い返すようにする。
- ・複数の資料から目的に適切な情報を取り出し、それらを再構成して表現する単元を仕組むようにする。
- (算数科) 身に付けさせたい数学的な見方・考え方を学年部・教科担当で明確にし、意識を高め指導する。
- ・「1つ分を作る」「そろえてみる」「数や形を変えてみる」など数学的な見方・考え方を児童に明示し、それらを活用しながら理由や根拠を明らかにして、話したり書いたりする活動に取り組むようにする。
- 〔中学校〕(国語科) 文種の特徴による読み方について汎用的に理解させるために、自分が表現する立場に立って文章を読んだり、情報を再構成したりする授業を意図的に行うようにする。
- ・文種の違いによる情報の取り出し方を、生徒が自覚できるような授業を行うようにする。
- (数学科) 文字式は、小学生でも学習する内容であるので、小中一貫教育の取組の数学の重点課題として、指導計画等に課題として明記する。
- ・中学1年の「正の数、負の数と四則計算」「文字を用いた式の表し方と計算」「方程式の意味とその解き方」の学習内容が「数と式」の基礎となるので習熟度の実態を明確にし、意識したりして、指導の徹底を図る。
- (英語科) 聞いた内容や書かれた内容を基に、自分の考えを英語で書く活動や自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合う言語活動を指導計画に意図的・計画的に組み入れ実践していく。
- ・リスニングの単元では、比較的に長い文章を聞かせ、概要や要点を正確に捉えさせる活動を意図的・計画的に組み入れていく。

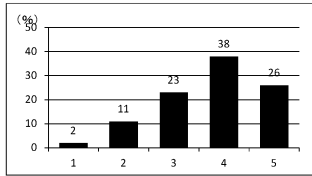
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

さつま町教育委員会

【小学校】

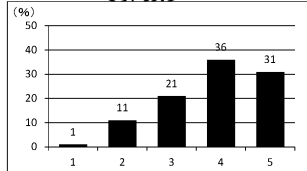
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階が64%と概ね良好な結果であるが、1、2段階の児童について、丁寧な個別指導が必要である。
・漢字を文の中で正しく使うことと、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことに課題がある。

〔算数〕

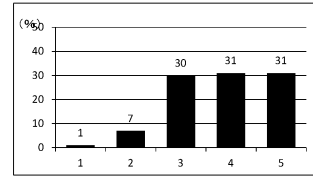


〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階が67%であり、概ね良好である。ただ、1、2段階の児童について、丁寧に関わり、繰り返し個別の補充指導等を行う必要がある。
・棒グラフから比べられる量が基にする量の何倍かを読み取ることと、示された除法の式の意味の理解に課題がある。

【中学校】

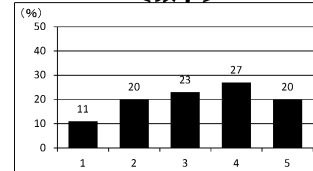
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階が全国に比べて少なく、3段階が全国より8ポイントほど多い。中間層を上位層に引き上げていく指導が必要である。
・文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えることと、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題がある。

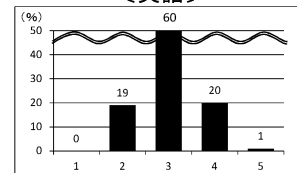
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、5段階の生徒が全国に比べて11ポイントも低く、中間層を引き上げる指導が必要である。特に、2、3段階の生徒が全国に比べ8ポイントも多く、底上げが課題である。
・事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することと、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解について課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、5段階の生徒が極端に少なく、4段階の生徒も全国に比べ12ポイントも少ない。2、3段階の層をいかに引き上げていくかが大きな課題である。
・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることと、まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することに課題がある。

【改善策】

今後、以下の内容について、本町の重点的な学方向上施策として取り組んでいく。

- 校内研修や研究授業、公開研究会などにおいて、町教委指導主事等が北陸地区やさつま町が推進する授業づくりのポイントの共通理解の下、具体的な授業改善について指導していく。特に、「ラスト10分の充実」に向けては重点的に指導する。
- 町内全小・中学校で取り組んでいる「さつまタイム」(帰りの会の時間に、その日の家庭学習の内容や時間について自分で計画を立てる取組)を確実に実施するとともに、その内容の充実を図る。
- 「鹿児島ベータシット」「鹿児島チャレンジ」「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を、対象学年の全児童生徒に印刷・配布し、各学校にて繰り返し計画的に活用する。

また、各教科の改善については、以下の事項を、管理職研修会や各種研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むこと。

(算数科) 表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすること。除法についての理解を深め、適切に用いること。

〔中学校〕(国語科) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりすること。

(数学科) 図形についての見方を深め、図形の性質を三角形の合同条件などを基に確かめ、論理的に考察し表現すること。

(英語科) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

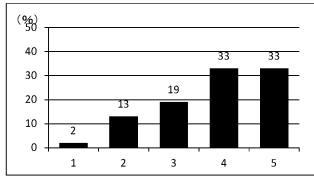
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

長島町 教育委員会

【小学校】

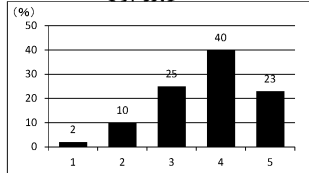
〔国語〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況から、4段階、5段階の割合が66%である。中位層～下位層を更に伸ばしていく必要がある。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして、まとめて書くことや、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。

〔算数〕

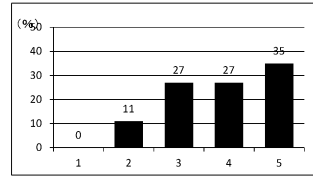


〈課題〉

- 5段階の分布状況から、4段階、5段階の割合が63%である。上位層を更に伸ばすとともに、中位層～下位層の更なる底上げが必要である。
- 示された計算の仕方を解釈し、それを基にした計算に関して成り立つ性質について記述すること、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。

【中学校】

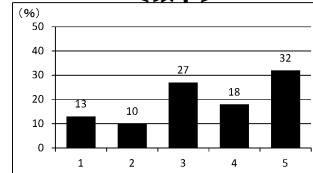
〔国語〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況から、4段階、5段階の割合が62%である。中位層～下位層を更に伸ばしていく必要がある。
- 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつこと、情報を整理して内容を捉えること、話し合いの話題や方向性を捉えて自分の考えをもつことに課題が見られる。

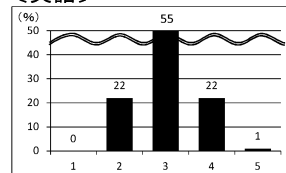
〔数学〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況から、4段階、5段階の割合が50%である。中位層～下位層の割合が高く、更なる底上げが必要である。
- グラフ上の点の座標の差を数学的に解釈し、説明すること、反比例の表から、式を求めること、示された資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

〔英語〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況から、3段階が55%であり、4段階、5段階の割合が23%である。中位層～下位層の更なる底上げが必要である。
- 文の中で適切に接続詞を用いること、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を書くこと、与えられた情報に基づいて登場人物を説明する英文を書くこと、与えられたテーマに沿って英文を書くことに課題が見られる。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の重点として取り扱っていく。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指し、各学校における授業改善に向けた校内研修を充実させるとともに、「北薩の授業づくり3ポイント」を踏まえた授業づくりについて、校内研修や研究授業の機会をとらえ、指導する。
 - 本町で実施している各教科等部会、中学校区教育研究会を中心に、授業を通して指導力の向上につながる研修を充実させる。中学校においては、各教科担当教諭による町内共通の実力テスト作成を通して、町内の先生方同士の指導力向上につなげる。
 - 各学校において、本調査結果から誤答傾向をもとにした分析を通して自校の課題を捉えさせるとともに、「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を日々の授業や家庭学習等で積極的に取り組ませよう、管理職研修会等の機会に指導を行う。
- また、以下の内容について、管理職研修会や校内研修会の機会に周知・指導し、各学校に取り組ませる。
- 【小学校】(国語科)与えられた文章から、目的や意図に応じ、必要な情報を的確に捉え、自分の考えをまとめ、表現する活動を積極的に行う。
(算数科)示された式の意味を考え、解釈し、説明させる活動、図やグラフ等で示された情報を読み取り、数学的に説明する活動を行う。
- 【中学校】(国語科)与えられた文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめ、表現する活動、話し合いの話題や方向性を捉え、自分の考えをまとめる活動を授業の中で行う。
(数学科)グラフや図表に示されている情報を正確に捉え、解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動を授業の中で行う。
(英語科)与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして英文を完成させる活動、与えられたテーマに沿って英文を書く活動を授業の中で行う。

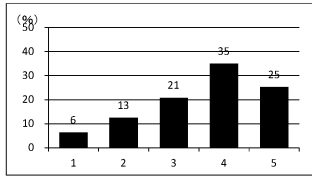
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

霧島市教育委員会

【小学校】

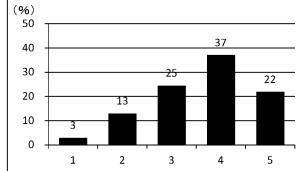
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、全国平均とほぼ同様であるが、1段階がやや多い傾向が見られる。
・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を捉える問題については、無答率が高い。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことに課題がある。

〔算数〕

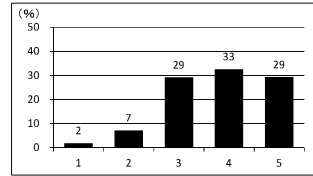


〈課題〉

・5段階の分布状況について、5段階が全国平均と比べて少なく、上位層が少ない。
・無答率は全国平均と比べて概ね低い。しかし、資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することに課題がある。

【中学校】

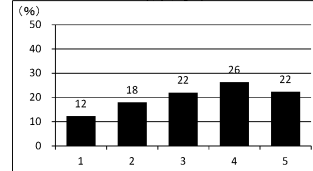
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、5段階が全国と比べて少なく、上位層がかなり少ないことが大きな課題である。
・封筒の書き方を理解して書く問題については、無答率が高い。また、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題がある。

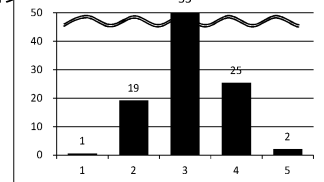
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階が全国平均と比べて少なく、また、1段階が多いので、個別指導や補充指導を効果的に行う必要性が課題である。
・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する問題の無答率が高い。また、連立二元一次方程式を解く問題の正答率が全国平均と比べて極めて低いため、定期的に課題のある問題についてトレーニングする必要がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、特に4段階が全国平均と比べて少なく、3段階が極めて多いので、上位層を伸ばすことが課題である。
・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることや、まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することに課題がある。

【改善策】

本市では、昨年度から学力向上に向けた取組の状況を問う学校評価の数値を成果指標として分析し、次学期の対策を計画・実践するPDCAサイクルを確実に実践する霧島市「学力向上プラン」を活用しながら、以下に示す「授業改善」と「定着の見届け」を学力向上の両輪として重点的に取り扱っていく。

○授業改善:「授業運動型家庭学習」…家庭学習と授業を効果的に位置付ける取組を全校体制で推進する。

○定着の見届け:「霧島市今週の1問」…小学校5・6年は4教科から、中学校1～3年は5教科から週1問ずつ教科をローテーションし、市教委から各学校へ7月から配信をスタートした。

また、以下の事項を管理職研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)自分の考えの理由を明確にして書く活動を継続して行う。

(算数科)資料を読み取る問題の正答率10%アップを目標とし、グラフを読み取る活動を徹底する。

〔中学校〕(国語科)構成(事実・理由付け・主張)を理解し、字数を意識して自分の考えを書く活動を継続して行う。

(数学科)連立方程式の問題の正答率80%を目標とし、できるだけ問題を繰り返す活動を徹底する。

(英語科)まとまりのある英文を読ませ、その概要を的確に捉えさせる学習や、読んだことや書いたことを基に、書いたり話したりする複合的な活動を徹底する。

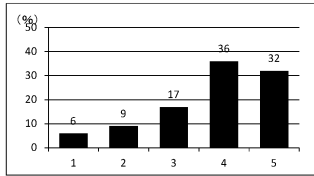
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

伊佐市教育委員会

【小学校】

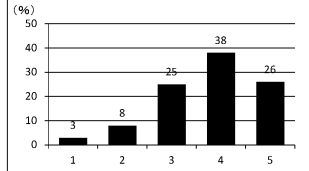
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4・5の段階は68%であり、約7割の児童が上位層であるが、15%の下位層についても、引き上げを図りたい。
・全ての設問について、全国平均正答率を上回っていたが、漢字を文の中で正しく使う部分については、やや県平均を下回ったため、小テストなどの取組を継続して行うことで向上を図りたい。

〔算数〕

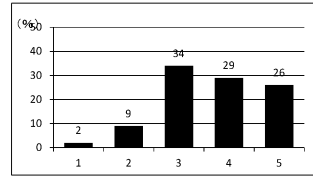


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4・5の段階は64%であり、上位層が多い状況であるが、下位層も11%いることから、中位層、下位層の引き上げを図りたい。
・ほとんどの設問で全国平均正答率を上回っていたが、量と測定の領域については、やや課題が残る結果であった。また、問題では、記述式の問題について課題があることが分かったため、授業での工夫改善を図りたい。

【中学校】

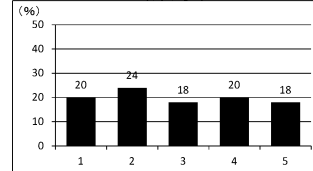
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、11%の下位層や34%の中位層において、読解力等を中心に高める必要がある。
・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ問題の正答率に課題があったため、日頃から自分の考えを書く活動を取り入れる必要がある。また、文章の中での語句の適切な活用などに課題があるため、文章を確実に読み取る力を付ける必要がある。

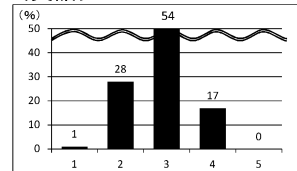
〔数学〕



〈課題〉

・下位層が多く、上位層が少ない状況である。特に、下位層が44%と高いため、個別指導を繰り返し行う必要がある。
・連立方程式を解くことからつまづいている生徒が多いため、基礎・基本の定着を徹底させながら、活用する力を育成していく必要がある。また、数式で表したり、説明したりするなどの活動にも課題があるため、授業の中で図やグラフなどを使いながら表現する活動を行っていく必要がある。

〔英語〕



〈課題〉

・3の生徒の割合が54%であり、2の生徒の割合が28%であるため、真ん中から下位層の生徒が多い状況である。領域では、特に書くことに対して課題が大きい。
・聞くことについては、やや正答率が高いため、良い面を伸ばしながら、他の領域の力もバランスよく伸ばしていきたい。
・文を書くことに課題があるため、自分の考えを英語で書いて表現する活動を繰り返し行う必要がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上に向けた重点施策として取り扱っていく。
○ 授業参観カードを生かした授業改善を図ることで、各学校で共通した視点で授業を進める。
○ 市で作成している「教職員の授業力アップを目指して」を活用し、共通実践を行うとともに、展開部分での授業改善について重点をおいて行う。
○ 鹿児島学習定着度調査、全国学力・学習状況調査に向けての目標値を設定し、管理職研修会などで、取組状況の確認を行う。
○ かごしま学力向上Webシステム単元別評価問題の確実な活用に向けて、今週の1問を設定し、児童生徒の継続的な取組を行い、見届けを確実にを行う。

また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
〔小学校〕(国語科) 読書活動などに継続的に取り組み、読解力の向上を図りながら、自分の考えを理由や根拠を明確にして、表現させる活動を行う。
(算数科) 基礎・基本の定着の時間の設定をしながら、グラフや表などの読み取りなど、自分の考えを表現させる活動に力を入れる。
〔中学校〕(国語科) 資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にししながら、筋道を立てて対話をする活動を取り入れ、表現力の向上を図る。
(数学科) 基礎・基本の向上を図りながら、筋道を立てて考えさせる活動を取り入れ、自分の考えをまとめる時間を設定する。
(英語科) 聞く活動や読む活動を行いながら、自分の考えを書く活動や話す活動にも重点をおいた授業を行う。

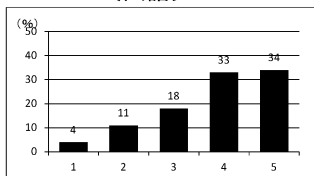
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

始良市教育委員会

【小学校】

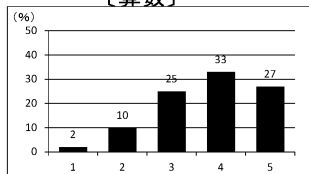
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が約67%おり、大変よい状況だと言える。
- ・ 正答率で全国との差が一番大きかった設問は、複数の条件を関係づけて、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にして書く設問であった。
- ・ 市が提唱している7つの徹底事項の中の「書くことの徹底」を推進し、授業のまとめは児童に考え書かせることを指導していく。

〔算数〕

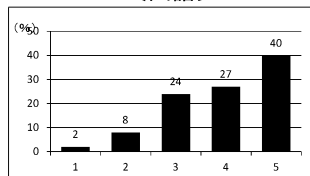


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が約60%おり、おおむねよい状況だと言える。
- ・ 正答率で全国との差が一番大きかった設問は、棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る設問であった。
- ・ 全体的にグラフの読み取りに課題がある。算数科だけではなく、他教科においてもグラフの読み取りについて指導するとともに、グラフから分かることを文章化させる取組をすすめていく。

【中学校】

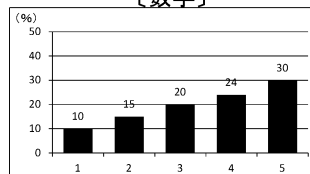
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が約66%おり、おおむねよい状況だと言える。
- ・ 多くの情報から、必要な情報を選び取ることが難しい。市が提唱している七つの徹底事項の中の「音読・読書の徹底」を呼びかけ、多くの情報に接することに苦手意識をもたせないような指導に努める。

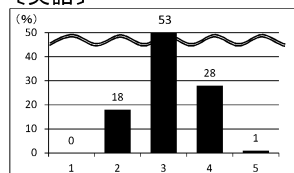
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、1・2段階が約25%おり、なだらかな山となっており、個人差が大きいことがわかる。
- ・ 正答率で全国との差が一番大きかった設問は、図書便りの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ設問であった。
- ・ 小学校と同様、グラフの読み取りを苦手としている。グラフの基礎用語と共に、他教科においても指導していく必要がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、3段階が50%を超えており、大きな課題があると言える。
- ・ 正答率で全国との差が一番大きかった設問は、「聞くこと」の内容で、聞いた内容を最も適切に表している絵を選択する設問であった。
- ・ 「聞くこと」の内容を苦手としているため、授業の中に、「聞く活動」を多く位置づけた授業展開を指導していく。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

【市教育委員会において】

- 9月の第2回学力向上アクションプラン推進事業推進会議において、全国学力・学習状況調査の結果を示すと共に、各学校で取り組んで欲しいことを授業改善の視点、授業外の視点に分けて提示する。

【授業改善の視点】

- 授業改善の視点では、昨年度から重点事項として「書くことの徹底」と「音読・読書の徹底」を呼びかけているが、今回も継続して呼びかけていく。
- 「書くことの徹底」では、小学校4年生以上では、まとめを自分の言葉で考えて書かせ、発表させる授業を目指す。
- 「音読・読書」の徹底では、学校全体として読書に取り組むことと、授業内において、「話すこと」「聞くこと」の活動量を増やすことに取り組む。特に英語科の授業においては、生徒の活動量が十分に確保できるような授業を目指す。
- グラフの読み取りに課題があるため、全教科を通してグラフの読み取りに取り組ませる。
- 積極的にWeb問題に取り組ませ、授業で活用できる内容は活用させ、教育課程に位置付けさせるようにする。

【授業外の視点】

- 授業外の取組として、新聞に親しむ場や時間を作ることを指導する。
- 平日1時間学習しない児童生徒が約20%以上いるため、小学校の低学年から継続的な指導と、個に応じた課題の提示について指導する。

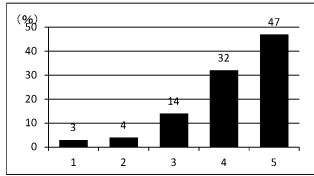
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

湧水町教育委員会

【小学校】

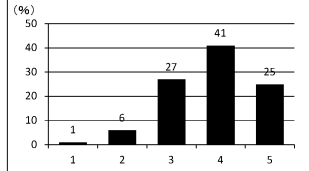
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、5の児童が最も多く、全体的にどの領域も正答率が高い。
・国語への関心・意欲・態度の点で若干課題が見られる。授業内容、読書指導、新聞を読む習慣等の充実・改善が必要である。

〔算数〕

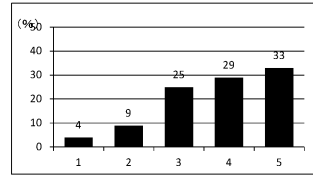


〈課題〉

・5段階分布状況では、4・5の児童が66%を占めており、全体的に正答率が高い。
・領域別に見ると量と測定、図形の正答率がやや低い。
・問題形式で見ると記述式の正答率が低く、面積の求め方や答えを選択したわけを記述することに課題がある。

【中学校】

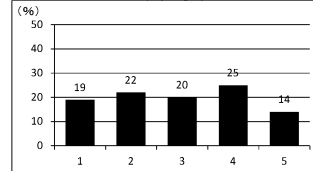
〔国語〕



〈課題〉

・5段階分布状況では、5の生徒が最も多いが、全問正答の割合が低い。下位、中位の底上げが必要である。
・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える力に課題がある。

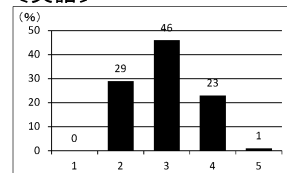
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、1・2の段階の割合が多く、上位の生徒が少ない。
・観点別では、数学的な見方や考え方の正答率が低く、問題形式で見ると記述式を苦手としている生徒が多い。
・事象を数学的に解釈し、説明する問題の正答率が低く、無解答の生徒が多いのが課題である。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、下位、中位の割合が多く、上位、特に5の生徒が極端に少ない。
・音声メッセージを聞いて把握した内容について、ほとんどの生徒が適切に応じることができず、半数以上が無解答である。
・基本的な語や文法を活用して、自分の考えを書いたり、話したりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 全ての学校において主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指して、従来、取り組んできた共通実践事項の「めあての設定」「学習の振り返りの設定」を更に充実させ、児童・生徒の学びに向かう力の喚起を大切に授業づくりに努めさせる。
 - 自校の学力の課題を共有し、学習指導法の改善を図るための校内研修を8月下旬から9月上旬までに全校で実施し、各教科の学習指導法の改善を図る「小中合同授業研究会」や「教務主任等研修会」、「学力向上推進会議」の実施・充実を図っていく。
 - ALTやSET加配(栗野中校区)と学級担任、英語科担任との連携強化を図り、授業の工夫・改善に努め、英語で自分の考えをまとめたり、即興で気持ちを伝え合ったりすることに抵抗のない、英語好きな児童・生徒の育成を目指す。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 国語への興味・関心を高める授業の工夫、日常的な読書指導、新聞への投稿指導等の促進

(算数科) 考えを伝え合い、練り合う時間を確保し、課題に対する解を自分の言葉で表現する活動の重視

〔中学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などと読み分けて内容を把握する指導の工夫

(数学科) 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

(英語科) 授業外で英語に触れる機会を確保し、英語で自分の考えを話す活動の重視

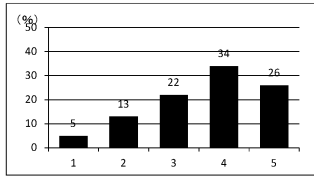
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

鹿屋市教育委員会

【小学校】

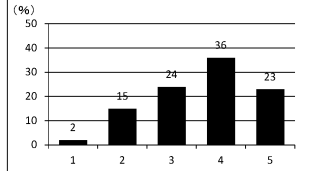
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布については、小学校国語は4段階の割合が一番多くなっている。
- ・領域別正答率では、「書くこと」「読むこと」が若干低く、記述式においては目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが県や全国に比べて若干低い。

〔算数〕

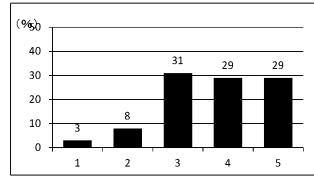


〈課題〉

- ・5段階の分布については、小学校算数は4段階の割合が一番多くなっているが上位層が若干少ない。
- ・領域別正答率では、全ての領域で若干低く、問題形式別平均正答率で見ても記述式がほとんど低い。無解答率については改善されている。
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を記述することに課題がある。

【中学校】

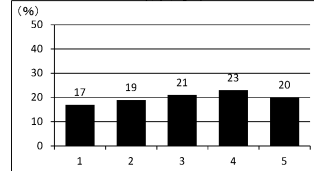
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布については、中学校国語は4段階の割合が3段階と同じような割合で、中間層が少ない。
- ・領域別正答率では、全ての領域で県平均から若干低く、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の差が大きい。記述式においては自分の考えを書くことが全国に比べて低い。
- ・封筒の書き方を理解して書くことについて県平均との開きが一番大きい。

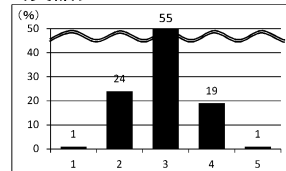
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分布については、中学校数学は1～3段階の割合が4・5段階と同じような割合で、上位層が少なく、下位層が多い。
- ・領域別正答率では、全ての領域で県平均から5%ほど低く、問題形式別平均正答率で見ても記述式が県平均と比べ5%以上どれも低い。
- ・このようなことから、図表やグラフを観察して、問題の解決に必要な情報を選択し、考察や説明することに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布については、中学校英語は3段階の割合が多く、上位層が少ない。5段階においては約1%とほとんどいない状況である。領域別正答率では、書くことが県平均から7%低く、問題形式別平均正答率で見ても短答式が県平均と比べ7%低い。記述式では3%低い。このようなことから、自ら語句を見つけ出し、書くことに課題がある。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。
- 諸学力検査の結果・分析や授業の改善・充実に関する学力向上に関する取組について管理職との学校訪問を継続的に行う。
 - 個への学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上Webシステム」の評価問題や大隅教育事務所の「よか問」の活用が図られているか、見届けを行う。
 - ICT機器の整備とICT活用能力向上のための研修を行い、学習環境の充実に努める。また、学校運営協議会(CS)をとおして、地域を含む学校内外の人材の授業参画を推奨する。
 - 課題のある問題等については、補充指導や類似問題を演習させるなど、各学校で振り返りの時間が確保できているか、見届けまで確実に進行。
 - 学びに向かう集団づくりのために、構成的グループエンカウンターの実施をとおして、学級の支持的風土の醸成を行う。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことの指導を重点的に行う。
 - (算数科) 資料の特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を記述することを重点的に行う。
 - 〔中学校〕(国語科) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導を重点的に行う。
 - (数学科) 図表やグラフを観察して、問題の解決に必要な情報を選択し、考察や説明することを重点的に行う。
 - (英語科) 「読んだことをもとに話す」「聞いたことをもとに書く」といった技能統合型の発信力を育成する。

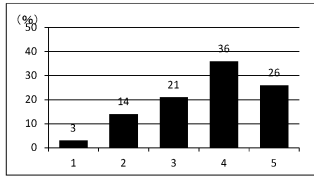
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

垂水市教育委員会

【小学校】

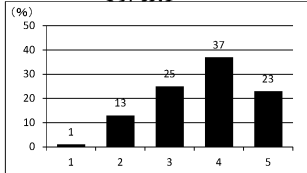
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については全国の分布状況と比較すると、本市の児童には全国と同じ傾向が見られる。
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることや、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。
- ・主として「記述式」の問題を解くことに課題がある。

〔算数〕

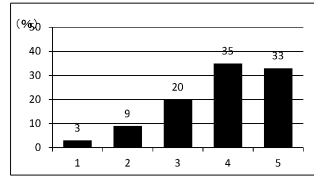


〈課題〉

- ・5段階の分布状況について全国の分布状況と比較すると、本市の児童は成績上位層が少なく、中位層が多くなっている。
- ・「数と計算」、「数量関係」領域における問題において課題がある。
- ・示された除法の式の意味理解や、資料(棒グラフ)を見て、その特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を文章で記述することに課題がある。

【中学校】

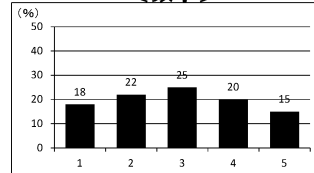
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については全国の分布状況と比較すると、本市の児童には全国と同じ傾向が見られる。
- ・話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。
- ・「封筒の書き方を理解して書く」問題の正答率が全国・県に比べて低く、課題がある。

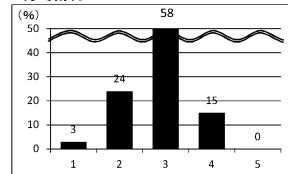
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について全国の分布状況と比較すると、本市の児童は成績上位層が少なく、中・下位層が多くなっている。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することに課題がある。
- ・主として「記述式」の問題を解くことに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について全国の分布状況と比較すると、本市の生徒は成績上位層が少なく、中位層が多くなっている。
- ・まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することや、説明文の大切な部分を理解することに課題がある。
- ・「言語や文化についての知識・理解」に関する問題において課題がある。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策実施における重点として取り組んでいく。
- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高めるとともに、学ぶ楽しさや分かる喜びが実感できる授業を展開する。
 - 「活用」に関する問題を解く力を伸ばすために、「かごしま学力向上Webシステム」等過去の良問を積極的に活用させ、見届けも確実に行う。
- 具体的には、以下に示す事項について、取り扱うようにする。
- 〔小学校〕(国語科)
 - ・事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて書くことができる指導の充実
 - ・分かりやすい文章を書くために、相手に伝わるかどうかという観点で、友達と相互に吟味し合う活動の充実
 - (算数科)
 - ・小数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解する指導の充実
 - ・資料からその特徴や傾向を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて理論的に話したり記述したりする指導の充実
 - 〔中学校〕(国語科)
 - ・話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる活動の充実
 - ・文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする指導の充実
 - (数学科)
 - ・問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする指導の充実
 - ・事柄が成り立つ理由を説明するために、数学的な解釈や根拠を正しく用いて理由を説明できるようにする活動の充実
 - (英語科)
 - ・物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取る活動の充実
 - ・文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく文を書く指導の充実

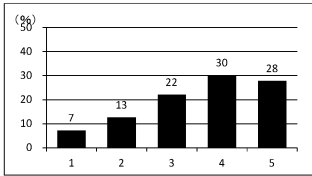
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

曾於市教育委員会

【小学校】

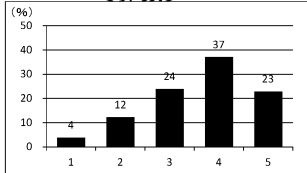
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階が半数以上の割合を占めるものの、下位層を占める割合も高く、漢字も含め、基礎的内容の定着が不十分である。
・領域別にみると、全てが県の平均正答率を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」が顕著で、話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて質問したりすることに課題がある。

〔算数〕

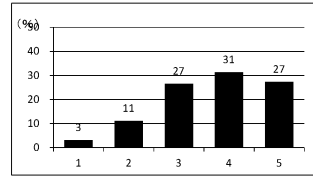


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階が60%と半数以上を占めるものの、1、2段階にも約16%もの児童がいる。
・「 $6+0$ 、 5×2 」の計算について、全国や県の正答率を下回っていることから、四則計算や計算の順序等の基礎的内容にも課題がある。また、領域「量と測定」に関して、大問2(3)のような複数の資料を読み取る力に課題があり、さらにはその読み取った理由を端的に述べる力が不足しているようである。

【中学校】

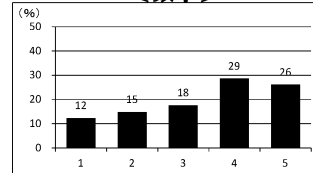
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階が半数以上の割合であるものの、3段階の占める割合も高い。また、1、2段階も約14%と見過ごせない数値である。
・領域ごとにみると、特に「話すこと・聞くこと」に課題がある。普段の学習において、話し合い活動等の言語活動を通じた学習経験が不足しているのではないかと考える。

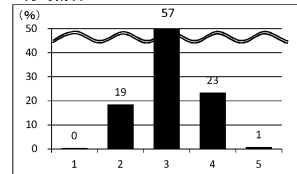
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階を占める割合は半数以上だが、1、2段階を占める割合も高い。他教科と比較しても、バラつきが大きいと言える。
・領域ごとにみると、どの項目もほぼ県平均と同等か上回る結果であった。しかし、前述のとおり上位層に助けられる形であり、下位層の向上及び学校間の格差を埋めていく手立てが求められる。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、3段階が半数以上を占め、そのうち、特に「13問」の正答者数が多い。
・簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることに課題がある。
・質問紙から分かったことだが、「英語の授業が分かる」「楽しい」と答えた生徒は、県平均を下回っている。しかし「今後役に立つ」と答えた生徒は県よりも高く、そうした生徒の思いに応える授業改善等が望まれる。

【改善策】

今後、「曾於市学力向上プラン」に基づき、学校訪問や授業参観等を通して、特に以下に示す事項について、指導の更なる充実を図る。

- 1 学びを支える「基礎力」の徹底……学習規律(授業での約束・学び方)の徹底、コミュニケーション能力の基盤となる「聴き合う」態度の育成等、「学びの基礎力」の定着の徹底を図るとともに、つまずきの早期発見や補充指導等、「知識・技能」の確実な定着に向けた指導を徹底する。
- 2 「曾於市学力向上スタンダード」に基づく授業づくり……自分の考えを記述したり相手に分かりやすく伝えたりする場や、学び合いを通じた課題解決、学びを実感できる振り返りの場の設定等について指導を徹底する。
- 3 WEBシステム評価問題等の活用……授業や個別指導において、計画的・効果的に活用し、定着が不十分な領域の指導を徹底する。

以下の事項について、管理職研修会や校内研究授業等で指導を徹底し、授業改善を図る。

〔小学校〕(国語科) 話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて話したりする力が高められるような指導を徹底させる。
(算数科) 探求型学習の授業改善を図らせ、かつ終末の時間を使った学習内容の定着や振り返りを徹底させる。

〔中学校〕(国語科) 対話活動等を通して話題や目的に沿って自分の考えをもったり話したりする力が高められる指導の充実が図られるようにする。
(数学科) 問題解決の構想を立てて、評価・改善することを通して数学を利用することのよさを実感できるような指導の充実が図られるようにする。
(英語科) 日常的に英語に親しむ環境整備と「読むこと」「話すこと」の力を高められるような活動が、平素の活動に取り入れられるように指導する。

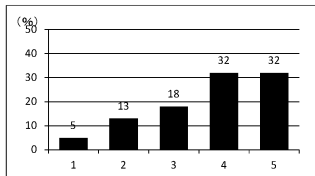
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

志布志市教育委員会

【小学校】

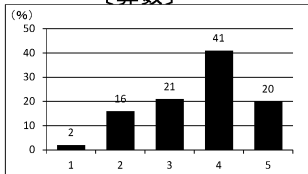
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が64%であり、特に伝統的な言語文化に高い正答率が見られた。
- ・ 複数の資料から適切な表現を選択したり、調査の内容や結果から分かったことを表現したりすることに課題がある。

〔算数〕

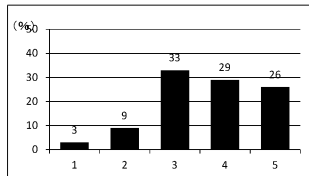


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、4・5段階が61%であるが、基礎・基本の定着を図り、中・下位層を伸ばしていく必要がある。
- ・ 複数の情報を関連付けながら分析して考察することや調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することに課題がある。

【中学校】

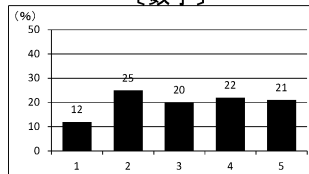
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が55%であり、中位層が33%と最も多く、身に付いている力を用いて活用することが全体的に不十分である。
- ・ 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことや相手に的確に伝えるようにあらすじを捉えて書くことについて正答率が低く、無解答率も高い。

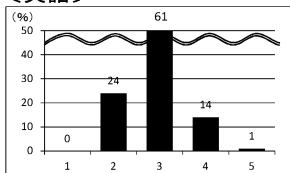
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、2～5段階がともに20%を超えており分布の広がりが大きい。下位層が37%と多く、中・下位層を伸ばしていくことが課題である。
- ・ 連立方程式など基礎的な問題の定着が不十分である。
- ・ 複数のグラフから答えを導いたり、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。記述式の問題では無解答率が高い。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、2・3段階が85%であり、基礎・基本及び活用する力とも十分定着していない。
- ・ 状況を描写する英文を読んで適切なものを選択したり、与えられたテーマについて考えを文章化したりすることに課題がある。英文を書く問題では無回答率が高い。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 管理職研修会の中で結果の分析と解決策について参加型学習形式で協議し、学力向上委員会の運営や共通実践事項について共有する。
 - 志布志市授業モデル等に基づき、教師の授業課題を明確に把握させ導入・展開・終末における学力向上のポイントに沿った指導を確実に行う。
 - 個に応じた学習活動の充実を目指し、Webシステムや「よか問」の活用を推進する。また、児童生徒の関心意欲の向上、理解の深さや広がり、指導の効率化のために、ICTタブレット、書画カメラ等を効果的に活用し授業改善を図る。
 - 児童生徒質問紙で明らかとなった家庭学習、食育の充実に向け、「志アップ子育て手帳」を用いて、各校のPTAや社会教育事業の中で啓発する時間を設け、保護者や住民の学力に対する意識を向上させる。
 - 小中9年間を見通した家庭学習(質と量)の系統化を図り、保護者が我が子の家庭学習状況を確実に見届ける仕組みづくりを行う。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- [小学校](国語科)表や図から考えたことを記述し、考えたことをもとに話し合う主体的で対話的な学習を徹底させる。
(算数科)論理的な説明・根拠を練り上げる活動、考えを記述する活動を充実させるとともに、学習の振り返りにより確実な定着を図る。
 - [中学校](国語科)単元の構成を工夫しながら読みを深め、自分の考えを長文で記述したり考えを交流したりする場の設定を行う。
(数学科)論理的な思考や根拠をもとに表現する場を多く設定し、順序立てた説明の仕方の習熟により無答を減らす。
(英語科)問題場面を意図的に設定し、必然性のある単元の構成を図りつつ、主体的で対話的な学習活動を展開する。

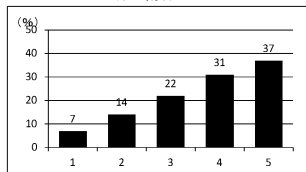
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

大崎町教育委員会

【小学校】

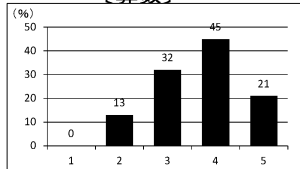
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階評価で4, 5段階の児童が67%と多いにもかかわらず, 1, 2段階の児童の割合は21%になり, 下位層の児童も多く見られる。
- ・設問を十分読み, 問題に含まれた問いや解答のための条件を十分捉えきれないために, 誤答となる場合が多い。
- ・大事なところにサイドラインを引かせたり, 条件を満たしながら答えを記述させたりすることに課題がある。

〔算数〕

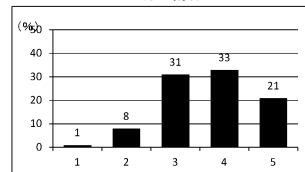


〈課題〉

- ・5段階評価で, 4, 5段階の児童が66%と多いが, 学習活動を充実させることで2, 3段階の45%の児童をさらに引き上げるようにしたい。
- ・培った計算力を, 「量と測定」「数量関係」の領域の問題で十分発揮できないことが課題である。また, 一つ一つの問題に対し, 筋道立てながら解決を見出すことについても課題が見られる。

【中学校】

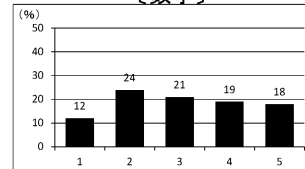
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階評価の4, 5段階の生徒が54%いるが, 一方で, 1, 2段階の生徒も10%近い。
- ・文章の構成を意識させながら文書を読ませたり, 自分の意見を上手く伝えるために話し合い活動を行わせたりすることに課題がある。小学校と連携を図り, 段階的な活動に十分慣れ親しませることに課題がある。

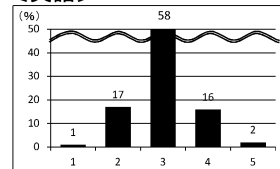
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階評価で, 4, 5段階の生徒と, 1, 2段階の生徒が同程度いる。このため, 学力差が大きい集団となるため, 個に応じた指導が継続的に必要である。
- ・設問ごとに見ると, 無答が目立つ問題があることも課題である。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階評価で, 4, 5段階の生徒の割合が18%である。また, 3段階の生徒の割合が, 58%を占めており, 4, 5段階の割合が18%と少ない。このため, 学力の底上げが課題である。
- ・記述式の問題については, 県平均をわずかに上回ったものの正答率が低い。具体的に取り組みながら, 改善を図る必要がある。

【改善策】

今後, 以下に示す事項について, 本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

○「学びの組織活性化」推進プロジェクトの実践校とモデル校において, 継続的な学校訪問を通して, 指導主事等による学力向上支援や指導・助言を行う。また, 小・中連携研究会における授業公開を通して, 子供たちに身に付けさせる「学び合い」の仕方を協議し, 各学校での実践に生かす。

○活用力を身に付けさせるために, 「かごしま学力向上支援Webシステム」や大隅教育事務所から提供されている「よか問」を活用するよう, 各学校への指導を徹底するとともに, 進捗管理に努める。

また, 以下の事項を, 管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じ, 必要な内容を整理して書いたり, 話し合ったりする活動が充実できるよう, 助言と指導を行う。

(算数科) 計算の習熟を深める他, 問題の解決方法について筋道を立てて説明する学習を授業で取り入れるよう指導する。

〔中学校〕(国語科) 文章を読むときには, 全体の構成を意識させながら読ませ, 筋道立てて話し合わせる活動が充実するよう助言する。

(数学科) 計算力の底上げを図り, 既習事項を生かして問題解決を図れるよう, 見方や考え方等についての指導を繰り返す。

(英語科) 日々のクラスルーム・イングリッシュの一層の充実を図り, 「話す」「聞く」の表現活動を充実させ, 「読む」「書く」内容の引き上げに努める。

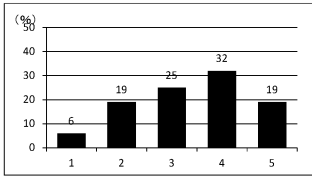
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

東串良町教育委員会

【小学校】

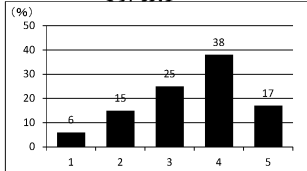
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4、5段階が51%であり、半数の児童は基礎的・基本的な知識を活用しながら解答する力が十分に定着しているとは言い難い。
- ・文と文の意味のつながりや接続詞の役割を正確に捉えて表現する力に課題がある。
- ・目的に応じてどのような情報が必要であるのかを明確にして読み、自分の考えをまとめる力に課題がある。

〔算数〕

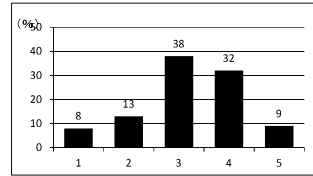


〈課題〉

- ・5段階の分布状況の1～3段階が46%であることから、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着していない児童が多い。また、それらを活用して解答する力も十分ではない。
- ・計算はできるが、計算の仕方を与えられた条件をもとに表現し説明する力に課題がある。約2割は無解答である。
- ・複数のグラフや資料を関連付けて判断し、その理由を数や言葉を用いて表現する力に課題がある。

【中学校】

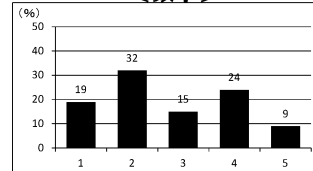
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況の1～3段階が59%であり、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着していない。
- ・目的意識をもって文章を読み、必要な情報をすべて取り出すなど整理する力に課題がある。
- ・相手に伝えたいことを表やグラフなどの資料を活用し、根拠を明確にして自分の考えを書く力に課題がある。約2割の生徒が無解答である。

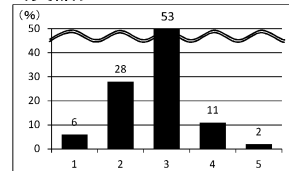
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から上位層の割合が少なく、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着していない。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能を活用し総合的に考察しながら説明するなど、数学的な見方や考え方に課題がある。
- ・数学的に成立する理由を文字式等を用いて根拠を明らかにしながら表現する力に課題があり、無解答率も高い。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況を見ると上位層の割合が少ない。be動詞と一般動詞の使い方が理解できていないなど、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着していない。
- ・英文を聞いて内容を把握し、求められる対応を英文で正しく書くことに課題がある。無解答率も高い。
- ・与えられた条件に基づき、文法事項等を正しく理解してまとまりのある文章を書くことに課題がある。

【改善策】

- 今後以下に示す事項について、本町の学力向上の施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 定着が不十分であった問題は全職員で共有し、誤答傾向からその原因を把握するとともに補充指導を徹底させる。
 - 定例の管理職研修会の研究協議のテーマを毎回「学力向上」とし、年度当初に作成した学力向上に向けた取組の進捗状況を確認する。取組が不十分な点については期限を定めて確実に実施させ、見届けまで行う。
 - 指導主事が定期的に学校を訪問し、「大隅学力向上リーフレット」や「学びの羅針盤」を活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組むよう繰り返し指導を行う。
 - 思考力・判断力・表現力の育成を図るため、「かごしま学力向上支援Webシステム」や「よか問」(大隅教育事務所作成)の計画的な活用について指導を徹底する。また、活用状況については定期的に見届けを行う。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) 目的を持って文章を読み、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を徹底する。
 - (算数科) 複数の資料やグラフから特徴や傾向を読み取り、その内容を正しく記述できるようにする。
 - 〔中学校〕(国語科) 文章を読んで必要な情報を正確に捉え、内容を整理して書く活動を徹底する。
 - (数学科) 基礎基本の確実な定着と既習事項を生かし、数学的な表現を用いて問題解決の方法を記述できるよう指導する。
 - (英語科) 文法等を正しく理解し、与えられた条件に基づきまとまりのある文章が書けるよう繰り返し指導する。

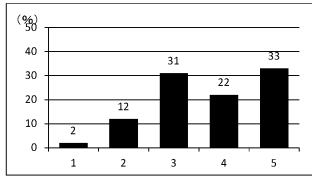
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

錦江町教育委員会

【小学校】

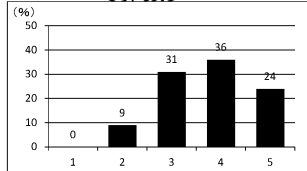
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、3段階が多く31%である。その多くが基礎・基本は身に付いているが表現力に関する問題に課題がある。
・問題を的確に読み取り、叙述から情景や人物の心情を深く読み取る力が十分でない。また、問題の条件をもとに、自分の考えをまとめ、表現する力の育成が必要である。そのためには、日々授業の中で、書く活動を取り入れ、自分の考えをまとめる場の設定が必要である。

〔算数〕

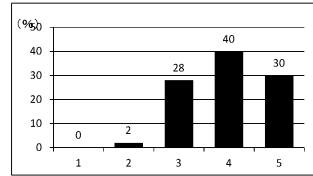


〈課題〉

・5段階の分布状況では、40%が2, 3段階にある。
・基礎・基本的内容については理解しているが、「図形」や「資料活用」の領域に課題がある。また、「記述式」の問題に対して十分な力が身に付いていない。そこで、日頃の授業においては、既習事項をもとに、言葉、式、図表、数直線を用いて自分の力で解決したり、友達と話し合ったりする活動を十分に行う必要がある。

【中学校】

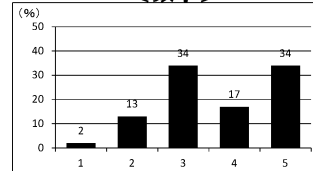
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、70%が4, 5段階にある。
・課題としては、「読むこと」「書くこと」の領域である。叙述から読み取ったことを基に、自分の考えをまとめて書く活動の充実や、目的に応じて、適切な情報を取り上げる工夫した書き方の指導が必要である。また、日常生活での読書活動の推進や新聞を読む習慣など、言語活動に自ら関わる態度を育てていく必要がある。

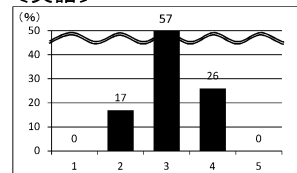
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、47%が2, 3段階にある。
・課題としては「関数」領域である。問題を的確に読み取り、グラフや様々な条件から、課題解決を図る力の育成が課題である。基礎・基本的な内容については、理解が深まっているので、日頃の授業では、活用問題に取り組みせたり、友達と話し合ったりする学習の場を設定する必要がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階分布状況では、57%が3段階にある。
・内容領域における課題は、「聞くこと」「書くこと」にある。「聞くこと」においては、聞き取りのポイントなどを押さえ、授業でも聞く力を高めたい。また、「書くこと」においては、正しい文法を用いて、自分の考えを表現する力を高めたい。そのためには、学習した英語を、日常生活で活用したり、英語を使った表現に慣れさせたりして、英語学習に対する意欲を高めたい。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点としてPDCAサイクルに基づいて取り扱っていく。

- 日頃の授業では、児童生徒が問題意識をもって自ら学習活動を展開できるようにする。導入では、子どもの課題意識に伴うめあてを立て、問題解決学習が行われるようにする。また、単元全体の「学習の見通し」をもたせ、主体的な学びが展開できる単元計画を立てるよう指導する。
- 「学びの組織活性化」推進プロジェクト(モデル校)において、諸調査等の結果分析、授業改善など、学力向上支援や指導・助言を行う。また、モデル校の取組を町内学校にも紹介し、各学校において、全職員で学力向上に向けて、組織活性化が図られるよう指導・助言を行っていく。さらに、町全体の教職員の指導力向上を図るために、校内研修に指導主事が参加して、授業づくりの支援や指導助言を行う。その際、「授業改善の3つの視点」や、「大隅学力向上リーフレット」、「学びの羅針盤」などを活用し、深い学びに向けた授業改善につなげるようにする。
- 思考力・判断力・表現力育成のため、各学校に対し、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用に関する指導を継続的に行うとともに、各学校の活用状況の把握と補充指導の充実について指導を徹底する。また、ICT演習Web「おさらい先生」等の活用も促す。
- 定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させるなど各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか見届けまで確実に実施する。また、本町では、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校に取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)読書活動を推進し、問題文や叙述を正しく読み取り、自分の考えを書く場を設定し、多様な言語感覚や言葉の力を豊かにする。
(算数科)身に付けた知識・技能を生かす活動を設定し、思考を深める場や手立ての工夫をする。また、活用問題に取り組ませる。

〔中学校〕(国語科)読書活動を推進し、目的に応じて、適切な情報を取り上げる工夫した書き方の指導を行う。
(数学科)対話活動を充実させ、言葉や数、式、表、グラフ等の相互の関連を考えさせる指導を行う。
(英語科)対話的な学習を多く取り入れたり、日常生活とのつながりを考えさせたりして、実用的な英語力を身に付けさせるよう指導する。

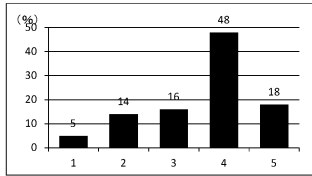
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南大隅町教育委員会

【小学校】

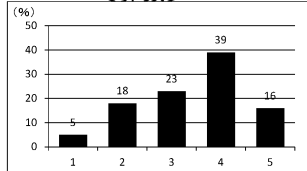
〔国語〕



〈課題〉

- ・4段階の児童が半数近くを占めているため、活用力をつけ、5段階の児童が増やせるようにする必要がある。
- ・1, 2段階の児童が20%近くいることから、基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- ・つながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと、目的に応じて、内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読むことに課題がある。

〔算数〕

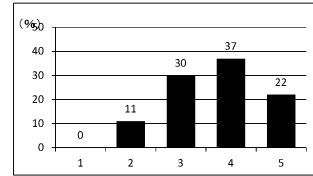


〈課題〉

- ・下位層の児童が少々多い傾向が見られる。基礎・基本の確実な定着を図り、中間層への引き上げが必要である。
- ・領域別では「量と測定」、観点別では「数学的な考え方」「知識・理解」に課題が見られる。
- ・水の使用量の棒グラフを読み取り(何倍かを求める問題、二つの棒グラフから1人当たりの増減を判断し理由を記述する問題)、示された除法の式の意味理解に課題がある。

【中学校】

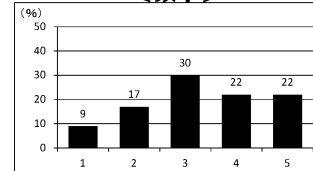
〔国語〕



〈課題〉

- ・中間層の生徒が多いため、活用力・表現力をつけ、上位層に引き上げる必要がある。
- ・「読むこと」に課題がある。具体的には、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題が見られる。

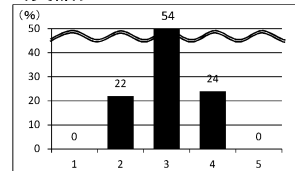
〔数学〕



〈課題〉

- ・数学的な見方や考え方に課題が見られ、記述式の問題での正答率が極端に低い。(記述式の問題については無解答率も高い。)
- ・問題解決の方法や判断の理由を数学的に説明したり、数学的な表現を用いて説明したりすることに課題がある。
- ・下位層の生徒が多い傾向が見られる。知識についての定着を十分に図る必要がある。

〔英語〕



〈課題〉

- ・中間層に生徒が集中しており、上位層の生徒がいない傾向が見られる。基礎・基本の確実な定着及び活用力をつけて、上位層に引き上げる必要がある。
- ・記述式の問題は、正答率が低く、無解答率も非常に高い。
- ・「読むこと」「書くこと」の領域において課題が見られる。具体的には、短答式の問題の正答率が低く、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 全国学力・学習状況調査等の分析結果をもとにした授業改善に向けた指導を徹底する。(「学びの羅針盤」「大隅学力向上リーフレット」の活用)
- 「学びの組織活性化」推進プロジェクトの研究授業、その他各学校における研究授業等への他校からの積極的参加(授業参観及び授業研究への参加)を推進し、校内研修及び個人研修の充実を図る。
- 研究授業等を積極的に参観し、授業改善に向けた指導を徹底する。(個別の指導も含めて)
- 活用力・表現力の育成を目指して、「かごしま学力向上支援Webシステム」や「よか問」などを、計画的・継続的に取り組むよう指導を徹底する。(一覧表とテスト問題、解答を、小学校は学年ごと、中学校は教科ごとにファイリングし、各学校へ配付。)

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校に取り組みさせる。

- 〔小学校〕(国語科)筆者の考えを要約したり、自分の考えをまとめたりするなど、字数制限等実態に応じて条件を加えて書く活動を充実させる。(算数科)解決のための式の前に、何を求めるのか一文説明を書かせる。テープ図や4ます関係表を活用して解決させる。
- 〔中学校〕(国語科)根拠を明確にして自分の考えを整理し、条件に従って文章でまとめさせる。(数学科)考えの根拠が分かるように明確に記した解法を書かせる。(英語科)必然性のある課題を設定し、話すだけでなく書くことも大切にした指導を徹底する。

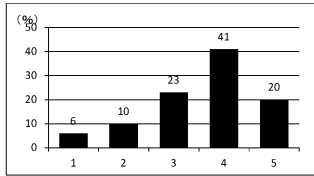
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

肝付町教育委員会

【小学校】

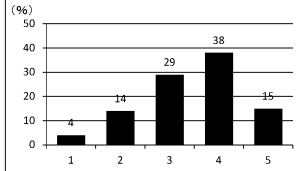
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4, 5段階は61%である。
- ・観点別では書く能力の正答率が高く、話す・聞く能力が低い。
- ・意見に応じた資料の選択や、相手の発言を要約する力は身に付いている。
- ・与えられた条件に基づいて、自分の考えをまとめることが苦手である。
- ・ことわざの意味を理解していない。

〔算数〕

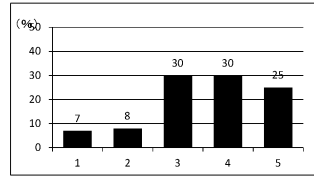


〈課題〉

- ・5段階の分布状況は、4, 5段階が53%である。
- ・領域別正答率は図形が高く、数と計算が低い。
- ・観点別正答率では、数学的な考え方が低い。
- ・計算の仕組みや意味、きまりの理解が十分ではない。
- ・図やグラフから必要な数値を読み取ることが苦手である。

【中学校】

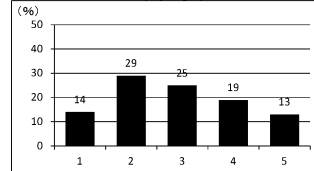
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、4, 5段階が55%である。
- ・観点別では書く能力が高く、話すこと・聞く能力が低い。
- ・話合いの方向性をとらえたり、それに合わせて自分の考えを条件に合わせて考えをまとめることが苦手である。
- ・自分の意見を条件に合わせて書くことの正答率が低い。

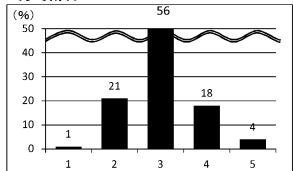
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階分布状況は、4, 5段階が32%である。
- ・領域別正答率では、関数領域が最も低い。
- ・観点別正答率では、数学的な見方・考え方や数学的な技能が低い。
- ・数学的な結果を解釈し、筋道立てて事柄が成り立つことを説明することが苦手である。
- ・数量や図形などを自分の考えを証明することに活用できない。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況は、4, 5段階が22%である。
- ・領域別正答率では聞くことが高く、読むことが低い。
- ・観点別正答率では外国語理解が高く、言語や文化についての知識・理解が低い。
- ・与えられた情報に基づいて、人称・時制を書くことは条件によって正答率が大きく変動する。
- ・英語を聞いて、その内容を理解することが苦手である。

【改善策】

今後、以下に示す事項を、本町の学力向上施策の重点として推進していく。

- 各学校で作成した「PDCA-Rサイクル」表に基づいた具体策の推進
- 学びの羅針盤・大隅学力向上リーフレットへの書き込みと校内研修等での積極的活用
- 大隅教育事務所が作成しているグラフ作成ソフトを年3回活用し、児童生徒の声を基にした授業改善
- 分析結果と対応策の見える化と、そこに対応したよか問・学力向上Webシステム問題・過去問の活用推進
- わかる・できるまでの反復指導実践のための時間確保

- 小学校：(国語科) 目的に応じた情報に着目させるために、内容別サイドラインやつながりを示す矢印などを活用させる。
(算数科) 図やグラフ、問題文から必要な数値や関係を取り出させるために、数値の記入やつながりを示す矢印などを活用させる。
- 中学校：(国語科) 目的を明確にした話合いを意識させるために、話合いのモデルを音声や文章で提示しポイントを明確にさせる。
(数学科) 自分の考えを持ったり筋道だった思考をさせたりするために、用語や決まり等の基礎・基本を理解させる。
(英語科) 人称や時制を意識させるために、様々な場面や状況等を英語で表す場面を設定する。

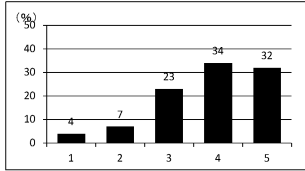
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

西之表市教育委員会

【小学校】

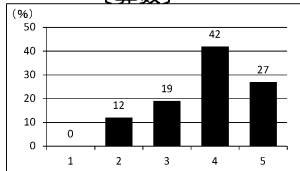
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、1～3段階が34%であることから、下位層及び中位層の基礎・基本や活用する力を伸ばしていくことが課題である。
- ・ 漢字を文の中で正しく使うことや話し手の意図を捉えながら聞くことに課題がみられる。

〔算数〕

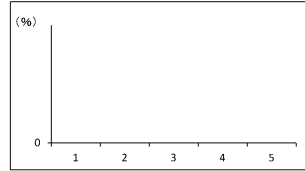


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、2, 3段階が31%であることから、中位層の基礎・基本や活用する力を伸ばしていくことが課題である。また、4段階が42%であることから、この段階の子供たちを5段階へ引き上げていくことも課題である。
- ・ グラフの読み取りや資料からわかることを理由を付けて説明することに課題がみられる。
- ・ 除法の意味を理解することに課題がみられる。

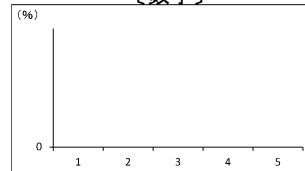
【中学校】

〔国語〕



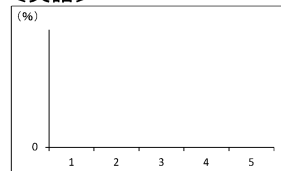
〈課題〉

〔数学〕



〈課題〉

〔英語〕



〈課題〉

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。
- 各学校における本調査の分析結果と課題解決に向けた具体的な取組を把握するとともに、各学校の課題解決に向けた取組の進捗状況の確認と指導・助言を行う。
 - 指導主事が校内研修等へ積極的に参加し、管理職とともに指導・助言を行うことで、教師個々の授業力の向上と授業改善に取り組む。また、研究授業において、授業者の発問や、児童・生徒への関わり、また、それに対する児童・生徒の反応等を記録できるようICT機器を活用する。記録した映像等を用いながら授業を分析し、指導・助言に生かしていく。
 - 「活用する力」を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に活用するよう各学校に指導していくとともに、有効活用している学校の取組情報を提供していく。また、各学校の活用状況の見届けをしっかりと行う。
- また、以下の事項を管理職研修会や校内研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕〔国語科〕漢字の習得にあたっては、文脈の中で正しい漢字を書いたり、使ったりできるように指導を行う。
話し合い活動等においては、話し手の意図は何かなど視点をもたせた活動を充実させていく。
〔算数科〕グラフや資料から読み取ったことを理由を明確にして説明する活動を行う。
計算の手順だけでなく意味理解を大切に授業を展開する。
- 〔中学校〕〔国語科〕根拠を明確にして自分の考えを述べる学習活動を充実させていく。
〔数学科〕確認テスト等での確実な見届けと学び直しの場面を設定していく。
〔英語科〕与えられた情報に基づいて英文を正確に書く活動を充実させていく。

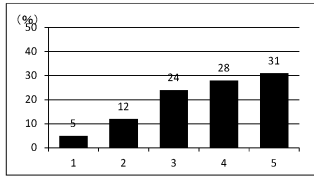
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

中種子町教育委員会

【小学校】

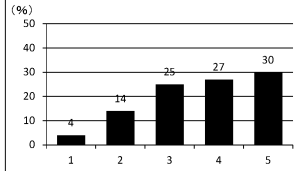
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は59%と6割近くを占め、国語の学力は比較的に高まっているといえるが、1、2段階も17%いることから、学力の底上げが課題である。
・領域別にみると「書くこと」に課題が見られ、特に漢字を使って書き直す設問は県平均を全て下回っており、基礎的な漢字の力が身に付いていない。目的や意図に応じて自分の考えを書くことも課題である。

〔算数〕

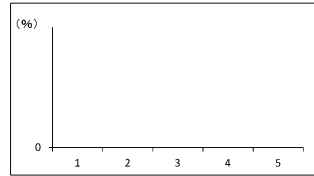


〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階が57%と6割近くであるが、1、2段階も18%であり、定着度の差が課題である。
・領域別では「量と測定」分野に課題があり、グラフから必要な情報を読みとる力が十分に身に付いていない。
・単位量当たりの大きさや四則混合計算に誤答が見られることから、計算の決まり等の基礎的な知識の定着が不十分である。

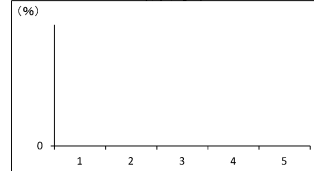
【中学校】

〔国語〕



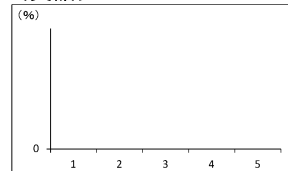
〈課題〉

〔数学〕



〈課題〉

〔英語〕



〈課題〉

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 各校で誤答傾向や有意差の見られる問題についての分析をさせ、具体的な改善策に取り組ませる。
- 今年度の結果を受けた次年度の全国学力・学習状況調査の数値目標を各校で設定させ、PDCAサイクルによる具体的な推進計画の作成と取組の実践化を図らせる。
- 下位層の学力向上を図らせるために、個に応じた指導の充実をねらった授業改善を進めさせるとともに、家庭学習の習慣化と内容面の充実を図るための家庭との連携強化を進めさせる。
- 中位・上位層の学力向上を図るために、「かごしま学力向上Webシステム」を計画的に活用するように、各学校への指導を徹底する。

また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

- 〔小学校〕(国語科)漢字の習熟を徹底させるとともに、目的や意図に応じた表現を意図した「書く」学習に取り組ませる。
(算数科)四則計算のきまり等の基礎的事項の指導の徹底と、グラフの読みとりや量感を育む指導に取り組ませる。
- 〔中学校〕(国語科)自分の考えを相手に分かりやすく伝える表現の工夫や情報を整理して内容を捉え、整理して書く活動を徹底させる。
(数学科)基礎的事項の定着を徹底させるとともに、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動に取り組ませる。
(英語科)ALTやICT機器を効果的に活用することで、ヒアリングの力を高めさせるとともに、対話的活動を充実させることで、自分の考えや意見を伝える経験を多く積ませる授業に取り組ませる。

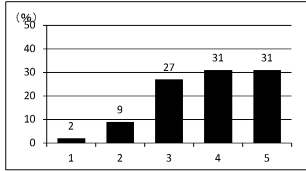
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南種子町教育委員会

【小学校】

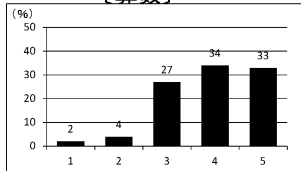
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 全体の62%の児童が4・5段階にあることから概ね学習内容を理解できている児童が多い反面, 1・2段階も11%いる。
- ・ 選択式・短答式の問題においては, 全国平均・県平均を上回っているものが多い反面, 記述式の問題はいずれも, 全国平均, 県平均を下回っている。

〔算数〕

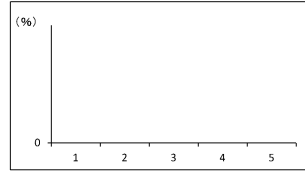


〈課題〉

- ・ 全体の67%の児童が4・5段階にあることから概ね学習内容を理解できている児童が多い反面, 1・2段階も6%いる。
- ・ 「数と計算」、「数量関係」の領域で, 全国平均・県平均を下回る問題が複数見られる。

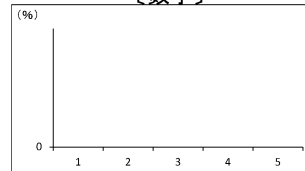
【中学校】

〔国語〕



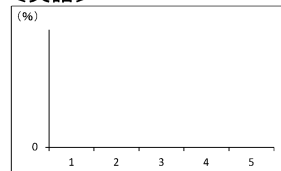
〈課題〉

〔数学〕



〈課題〉

〔英語〕



〈課題〉

【改善策】

【今後の本町における学力向上の重点施策】

- ・ 小中一貫教育を推進し, 発達段階にあわせながら, 主体的・対話的な深い学びを展開できるよう授業改善を図る。
- ・ 子供たちが十分に実力を発揮することができるよう, 全国学力学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の過去問題, かごしま学習支援Webシステムの適用問題等の効果的な活用を図る。
- ・ 授業のユニバーサルデザイン化を意識し, 子供たちそれぞれの能力が十分に発揮できる授業づくりに努め, 学習したことへの達成感・充実感を感じられるよう授業改善を図る。

【小学校】〔国語科〕言語活動を積極的に取り入れ, 目的や意図に応じて考えたことを説明したり, 文章に表したりする学習活動の充実を努める。

【算数科】本町で作成している小1から中3までの算数・数学関数領域における系統表や学力向上支援Web問題等の活用を図る。

【中学校】〔国語科〕音読等の読む活動を中心とした言語活動を積極的に取り入れ, 自分の考えを伝えるための学習活動の充実を努める。

【数学科】本町で作成している算数・数学関数領域における系統表や学力向上支援Web問題等を使い個別指導の充実を図る。

【英語科】日常的な学習活動(日記や音読の宿題等)に英語の要素を取り入れ, 語彙力の向上と基礎的・基本的な内容の定着を図る。

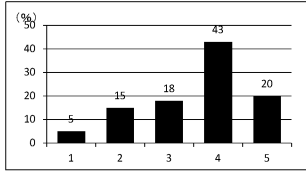
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

屋久島町教育委員会

【小学校】

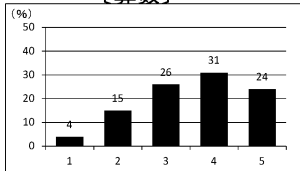
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は63%を占めている。県63.9%、全国60.3%となり、比較すると概ね数値的には違いは見られないが、5段階の上位層で分析すると本町20%、県30.2%、全国26.4%となり、大きな差が生じる。このことは、正答率ごとに分析すると言語についての知識・理解・技能面において差があり、基礎・基本の確実な習得について課題があることが明確となった。

〔算数〕

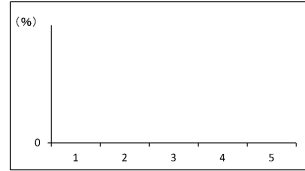


〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は55%を占めている。県62.4%、全国60.3%となり、上位層の数値的に大きな差が見られる。また、5段階の上位層で分析すると本町24%、県26.2%、全国28.5%となり、これについても差が生じる。このことは、1～3段階にいる児童が多いことであり、課題である。また、正答率ごとに分析すると数と計算において顕著な差が見られ、計算のきまりや立式する力において課題があることが明確である。

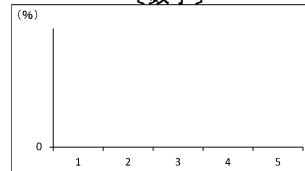
【中学校】

〔国語〕



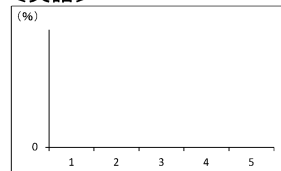
〈課題〉

〔数学〕



〈課題〉

〔英語〕



〈課題〉

【改善策】

- 各学校の正答率、無回答率、誤答傾向等の分析を伝え、授業改善について、具体的な指導方法を管理職研修会や各学校における研修会等で指導し、取り組ませ、変更について確認の場を設ける。
 - 校内研修、研究授業等において、「学びの組織活性化」プロジェクトや本町の指導主事やコアティーチャーも活用し、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行うと共に各学校の成果を共有する。
- 〔小学校〕(国語科) 自分の考えや伝えたいことを整理して書く活動や漢字の書き取りなどの取り組みせ方について、定着に向けた改善のポイントを明確にさせ、定着度の評価をスケジュールを立てさせる。
- (算数科) 数と計算領域について、既習学習との関連を共通理解させ、指導改善として全校に取り組ませる。
- 〔中学校〕(国語科) 文章の構成や展開、表現の仕方のどこに着目するのか、どこを根拠とするのかといった詳細な読み取り力をつける指導を行わせる。
- (数学科) 数と式については、小学校からの課題であることを因果関係を示し、小・中の改善についてのポイントを共有させる。関数についても、小学校との学習の系統を明確にし、それらを示し改善を図る。
- (英語科) 表現を通じた理解へとつなげるために、知識面の習得させる反復学習と学習内容が定着しているかを確認する場を設ける。また、良問について単元内に位置付けて取り組ませる。

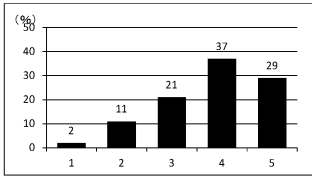
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

奄美市教育委員会

【小学校】

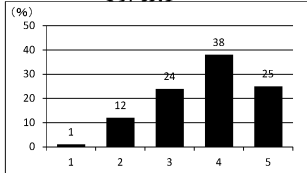
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4, 5段階は66%であるが、活用することについては、まだ不十分な児童がいる。
- ・ 漢字の書き取りについて、全国平均を下回る問題があったので、確実に習得させる必要がある。また、相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方を身に付ける必要がある。そのために、授業において、相手意識をもたせながら、書くことの指導の工夫・改善を図っていく。

〔算数〕

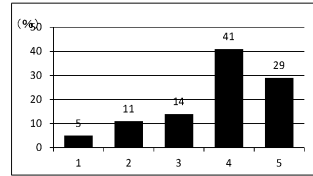


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4, 5段階が63%である上位層が国語よりもやや下回っていることから、上位層の児童の数を伸ばす必要がある。
- ・ 計算、特に除法については、苦手とする傾向が継続している。また、表・グラフを読み取る問題、単位量あたりの大きさを基に求め方と答えを記述する問題を求める問題に対して、苦手意識をもつ児童がいる。

【中学校】

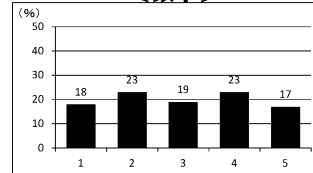
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4, 5段階は70%であるが、領域全てが県平均、全国平均を下回っている。
- ・ 記述式の問題に対して、正答率が低く、無答率が高い。相手意識をもたうて自分の考えをまとめたり、根拠と見通しを明確にしてまとめたりする学習を進めていく必要がある。

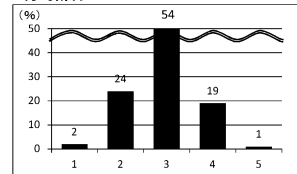
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4, 5段階は40%であり、全体的に低い状況である。また、1, 2段階は41%と高い状況であり、学習事項を確実に定着させる取組が急務である。
- ・ 全体的に誤答率が高い。特に正答率が低いのは、「数と式」や「関数」の領域で、全国平均より12ポイント以上低い。また、資料の傾向や式変形の説明をする問題、証明などの記述式の問題における無答率が高い。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、4, 5段階は20%であり、全体的に低い状況である。また、1, 2段階は26%と高い状況であり、確実に学習事項を定着させる取組が必要である。
- ・ 全体的に誤答率が高い。特に正答率が低いのは、「書くこと」の領域で、全国平均より10ポイント以上低い。特に、記述式の問題における無答率が高い。

【改善策】

- 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用問題を各小中学校で必ず取り組ませ、その状況と事後指導について報告させる。
- 指導主事の定期的な学校訪問等を通して、授業改善に向けた具体的・重点的な指導を実施する。
- 各学校における課題解決のための具体的な方策がどの程度実施されているかを的確に把握する。その際、本市の「学力向上対策・授業改善5つの方策」を徹底して実践させるとともに、以下について各学校に取り組ませる。

〔小学校〕

- (国語科) ・ 自分で考えたことを伝えたり、話し合ったりする相互解決の場の確実な確保と、自分の言葉によるまとめの確実な実施
- (算数科) ・ 定着が不十分な学習事項に対する補充指導の実施
- ・ 文章や絵図を使って、自分で考えたことをまとめ、算数的言語を使って説明する活動の重視と徹底
- ・ 机間指導の充実による個々の状況の把握と、学習のまとめ及び見届けの確実な実施

〔中学校〕

- (国語科) ・ 情報を的確に読み取るとともに、練り合うことをとおして、理由や根拠を明確にして自分の考えを文章等でまとめる活動の設定と確実な実施
- (数学科) ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と基礎・基本の確実な定着を図る繰り返し学習の実施
- ・ 自力解決や相互解決における判断の根拠や理由を明確にし、数学的な表現を用いて説明する活動の設定
- (英語科) ・ 授業の中で、生徒による主体的・対話的な学びにつなげるための、ゴールを明確にした活動の充実と、振り返りの実施

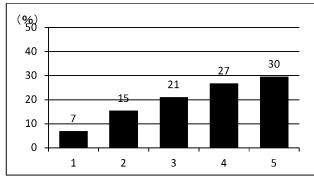
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

瀬戸内町教育委員会

【小学校】

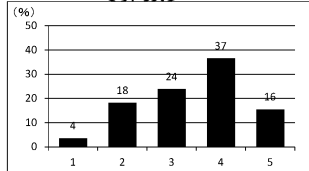
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階は約58%であり、上位層が半数を超えている。一方で1、2段階も約22%あり、そのうち約1割は1段階であり、下位層の割合も高い。
・特に、目的や意図に応じて自分の考えや理由を明確にして書く(報告する文書)問題の通過率は約28%であり、大きな課題があると言える。

〔算数〕

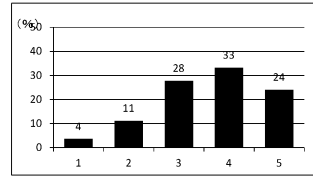


〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、4段階が最も高く、約37%である一方、1、2段階が約22%であり、下位層の割合も高いと言える。
・すべての領域で全国平均を下回っているが、特に、数と計算、数量関係については全国平均との差が約8～9ポイントであり、大きな課題である。
・計算の仕方を解釈し、成り立つ性質を記述する問題の回答率が低く、課題である。

【中学校】

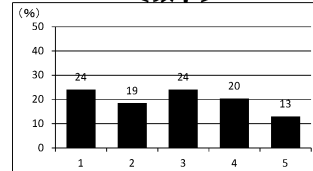
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、3、4段階が約60%で中位層の割合が高い。その一方で1、2段階の階層が約15%であり、下位層を中位層へ引き上げることが課題であると言える。
・領域別に見ると、どの領域においても全国平均を下回っている。特に、話すこと・聞くことの通過率が最も低く、約10ポイント下回っている。
・記述式の問題の無答率が約10%であり、大きな課題である。

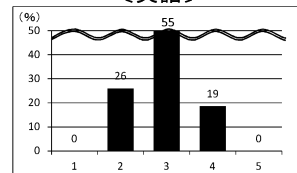
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布を見ると、1、2段階が約43%であり、下位層をいかに引き上げるかが大きな課題である。
・記述式の問題について、無回答の割合が高く、最も高い問題では約20%が無答であり、大きな課題である。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の通過率が最も低く、約13%、全国平均との差が約20ポイント以上あり、大きな課題である。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布を見ると、3段階が約55%であり、中位層の割合が高い。その一方で2段階が26%である。
・記述式の問題の通過率が最も低いもので約4%と著しく低く、自分の考えを書いたり、友達へのアドバイスを書いたりするなど、書くことへの抵抗が強い傾向にある。
・書かれた内容や聞いた内容を理解した上で、自分の考えをまとめる力に大きな課題があると言える。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 学校長、学力向上担当職員で構成される町学力向上対策会議において本町の現状(各種学力検査等の結果)、具体的な方策(町全体で取り組むこと)について共通理解を図り、「町全体で、すべての学校が取り組むべき課題」という認識をもつようにする。
- 本町の教育長、指導主事による学校訪問を通して学力向上に関する各校の取組について進捗状況を確認するとともに、指導・助言を行う。また、課題のある学校については指導主事による継続的な学校訪問を実施し、指導・助言を行う。
- 学力向上対策を3つの柱で推進する。具体的には「基盤」(学習のルール、生活リズム等)、「授業改善」(問題解決的な学習の推進等)、「習熟」(学力向上支援Webシステムの問題、過去問等の活用および個別指導)を柱とした取組を推進する。また、習熟に関しては定着の低かった問題を「今週の間」として町教委から発信し、全校で取り組めるようにする。

〔小学校〕

(国語科) 目的に応じて、相手に分かりやすい表現ができるような指導を徹底する。

(算数科) 数学的な考え方を筋道立てて、考えた過程を記述できるような指導を徹底する。(日頃から考えた後を残す指導)

〔中学校〕

(国語科) 相手に分かりやすく話す、相手の考えを注意深く聞くための指導を徹底する。記述する問題に多く取り組ませる。

(数学科) 基本的な数と式の指導を徹底する。場合によっては当該学年以前の問題にも取り組ませ、指導を徹底する

(英語科) 書くことへの抵抗感をなくすための日常的な指導を徹底する。基礎的な単語の習得、長文の読解の指導を徹底する。

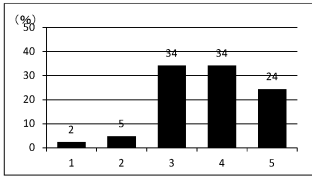
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

龍郷町教育委員会

【小学校】

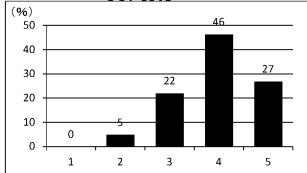
〔国語〕



〈課題〉

・昨年度よりも1・2段階の下位層が減り、平均正答率も全国を上回る結果となったことから、国語は学力が向上していると言える。
・分布の頂点が、全国・県よりも左側にあることから、特に中間層の向上を図ることで、今後も結果の高まりが望める。
・全国・県と比べ「読むこと」領域の正答率が低くなっている。特に、目的や意図に応じて、自分の理由や考えを明らかにしながら読み取る内容に課題がある。

〔算数〕

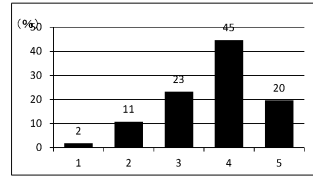


〈課題〉

・昨年度よりも1・2段階の下位層が減り、平均正答率も全国を上回る結果となったことから、算数は学力が向上していると言える。
・分布の頂点が、全国・県よりもやや左側にあることから、中間層の向上を図ることで、今後も結果の高まりが望める。
・異なる二つの数量に着目したり、図形の辺や長さに着目したりして、関係づけて考察することに課題がある。特に、式の意味や読み取りの内容に課題がある。

【中学校】

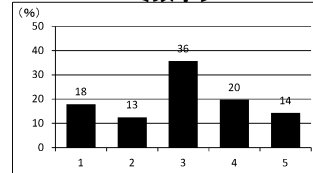
〔国語〕



〈課題〉

・昨年度よりも1・2段階の下位層が減り、平均正答率も全国・県との差が縮まっていることから、国語は学力向上の兆しがあると言える。
・分布の頂点が、全国・県よりもやや左側にあることから、中間層の向上を図ることで、差の縮まりが望める。
・「話すこと」「読むこと」領域において、問いを読んでポイントを押さえた問題文の読み取りや、自らの立場を明らかにして、書いたり、話したりすることに課題がある。

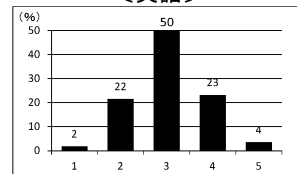
〔数学〕



〈課題〉

・昨年度よりも1・2段階の下位層が減り、以前差は開いているものの昨年度よりも差が縮まっていることから、数学は学力向上の兆しがあると言える。
・分布の頂点が、二山あることから特に下位層の底上げが必要である。
・「数と式」「関数」領域は、継続的な課題となっており、問題文から数学的な事象を読み取った考えや、式から式を変形した目的や理由を説明することに課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・分布の頂点が、全国よりも左側にあること、また上位層の割合が少ないことから、中間層の向上が必要である。
・「聞くこと」「話すこと」領域の正答率が低くなっている。特に、質問や依頼提案などを聞いて理解して適切な応答をする活動や、適切に接続詞を用いたり、肯定文を正確に書いたりする内容に課題がある。

【改善策】

○ どの教科においても小中の課題が共通していることから、以下のことを授業改善の視点として、各学校だけでなく本町の教科部会や小中連携の場でも共通して実践していく。

(国語)

- ・学習の目的や意図を明確にもたせるための単元や本時導入時の指導方法改善及び学習後、目的や意図に沿った学びになっていたかの振り返りの設定
- ・目的や意図、自分の立場を明確にし、ポイントを押さえた読み取りや、書いたり、話したりする機会の充実

(算数・数学)

- ・見通しの段階において、事象のどこに着目して、どのように考えればよいか(特に2量の関係)を意識させる指導の工夫
- ・自らの考えの根拠を明らかにして表現したり、説明したりする機会の充実

(英語)

- ・質問や依頼、提案などを聞いて、理解し、適切な応答をする機会の充実
- ・実際に考えを述べる中での文法や表現を使う活動の設定

○ 効果的な学力向上の推進 (分析の確認(授業につながる分析になっているか)及び分析結果と「学力向上アクションプラン」との整合確認)

○ Web問題等の活用を図り、授業改善の評価等につなげていく。

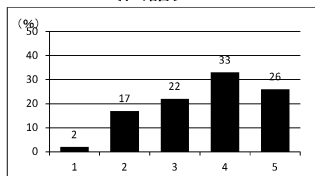
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

喜界町教育委員会

【小学校】

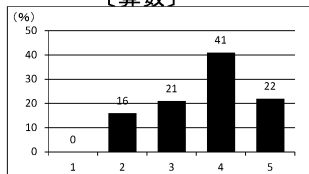
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が59%であり、比較的能力が付いてきているが、1・2段階の引き上げが課題である。
- ・ 複数の資料を読み取り、条件に合わせて書くことが課題である。また、目的に応じた図表や言葉・文の用い方も課題である。
- ・ 間違えやすい同音異義語やことわざの定着も十分でない。

〔算数〕

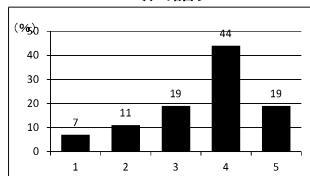


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が63%であり、比較的能力が付いてきているが、2・3段階の引き上げが課題である。
- ・ 図形の性質や構成要素の理解、グラフの見方、計算のきまりの使い方、単位換算、単位の大きさの理解に課題がある。
- ・ 筋道立てて考える過程を条件に合わせて説明することに課題がある。

【中学校】

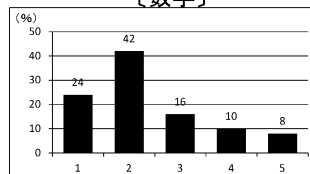
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階が63%であり、比較的能力が付いてきていると考えられる。
- ・ 「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題がある。特に、「封筒の書き方を理解して書くこと」や「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと」、「自分の考えをもつこと」の問題について無解答率が高いことが課題である。

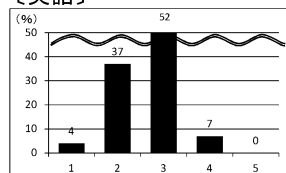
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、1・2段階の割合が66%と多く、「知識・理解」や「技能」の定着が低い状況にある。
- ・ 「方程式を解くこと」や「反比例の式で表すこと」、「図形の性質を説明すること」、「資料の最頻値を読み取ったり、数学的な表現を用いて説明したりすること」などの正答率が低く、また無解答率も高いことが課題である。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、2段階が37%であり、上位層が少ない傾向にある。
- ・ 「書くこと」の正答率が低い。特に、「聞いて把握した内容について、適切に応じること」や「資料を読んで、自分の考えを書くこと」についての正答率が低く、また、無解答率が高いことが課題である。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
- 「学びの組織活性化」推進プロジェクトのモデル校において、学力向上担当教員等と指導主事が連携して打合せをしたり、指導主事が継続的に学校訪問をしたりして、学力向上に係る指導・助言を行う。
 - 定着が不十分な下位層の児童生徒に対しては補充指導を徹底させ、見届けや結果を学校内で共有し、次の指導へ活用するといった、各学校内でのPDCAサイクルの充実を指導する。
 - 以下の事項を、管理職研修会や各係教科等研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔中学校〕(国語科) 自分の考えを的確に表現(書いたり、話したり)できるよう指導を行う。
(数学科) 数学に関する基礎的な用語や記号の意味を理解させ、式や図を用いて説明したり、書いたりできるよう指導を行う。
(英語科) 自分の考えを積極的に英語で表現(話したり、書いたり)できるよう指導を行う。
- 〔小学校〕(国語科) 手がかりとなる言葉や文に着目して読ませたり、条件を確認して書かせたり、理由や根拠をもった話合いの指導を行う。
(算数科) 基礎的・基本的な内容について繰り返し指導を徹底することと筋道を立てて説明する活動の充実を図るように指導する。

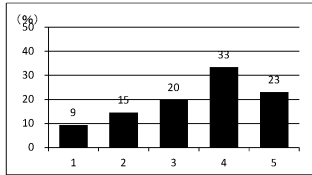
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

徳之島町教育委員会

【小学校】

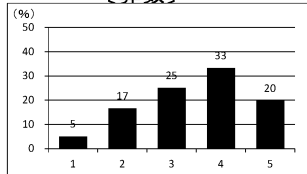
〔国語〕



〈課題〉

国語は、上位層(4, 5)が56%と多く、学習内容の定着は概ね良好といえる。
依然として、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」に課題がある。この傾向は、児童の質問紙法からも書くことに苦手意識を持っていることが分かる。
書く活動を授業展開に位置付ける必要がある。

〔算数〕

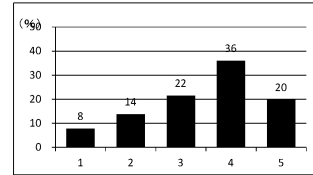


〈課題〉

算数は、上位層(4, 5)が53%と多く、学習内容の定着は概ね良好といえる。
正答率が3割台と低かった出題は、「図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」、「計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する」等、自らの考えを説明・記述することに課題がある。
授業等で、自らの考えを説明・発表する機会の充実が必要である。

【中学校】

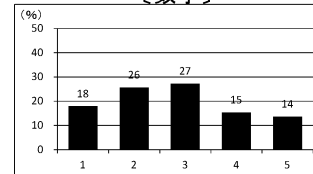
〔国語〕



〈課題〉

国語は、上位層(4, 5)が57%と多く、学習内容の定着は概ね良好といえる。
正答率が5割を下回った出題は、「封筒の書き方を理解して書く」、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」等、表現に関する内容に依然として課題がある。
授業はもちろん、普段の生活においても、自分の言葉で表現する機会を充実させる必要がある。

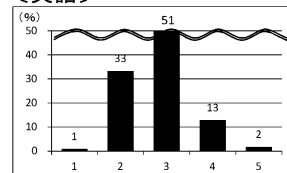
〔数学〕



〈課題〉

数学は、上位層(4, 5)の割合が29%と少なく、中・下位層(1, 2, 3)が71%と多い。学習内容の定着が十分に図られていない。
正答率が3割を下回った出題は、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」、「資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明すること」等、自らの考えを説明・記述することに課題がある。
授業等で、自らの考えを説明・発表する機会の充実が必要である。

〔英語〕



〈課題〉

英語は、上位層(4, 5)の割合が15%と少なく、中・下位層(1, 2, 3)が85%と多い。学習内容の定着が十分に図られていない。
正答率が1割を下回った出題は、「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」、「自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること」等、いずれも活用型の問題に課題がある。
「話すこと」、「聞くこと」を重視した授業展開と、より実践的なコミュニケーションの場を充実させる必要がある。

【改善策】

【共通】

- 授業充実の3ポイント(目標の明確化, 山場の設定, 確実な見届け)の徹底
- 児童生徒が、自分の言葉で説明したり書いたりする機会の更なる充実
- 授業と連動した家庭学習の充実と中学校区ごとの家庭学習強調週間の実施
- Web問題や過去問等の活用と、できるようになるまで徹底した指導と見届け
- 「今週の1問」等、各学校特色のある学力向上策の展開

【授業において】

- 1 「確かめ」と「見届け」を重視した授業展開と終末過程の確実な時間確保
- 2 一斉指導型ではなく、児童生徒自らが主体的に自分の考えを「発信する」授業展開の工夫
- 3 ICTやホワイトボードを活用した、互いの考えを「可視化」「共有化」できる教材等の工夫
- 4 板書を書き写す「備忘録」としてのノートから、自分の考えを形成・構築していくためのノートへの転換

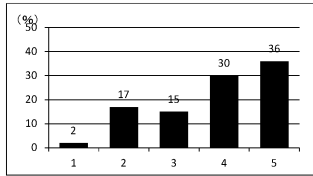
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

天城町教育委員会

【小学校】

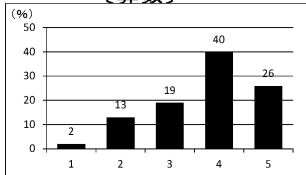
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、2～3の段階が32%であることから、中位層をいかに上位層へ引き上げるかが課題である。1の段階の児童については、個別指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る必要がある。
 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえたうえで、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。
 ・「書くこと」の領域については、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

〔算数〕

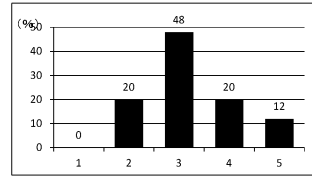


〈課題〉

・5段階の分布状況について、2～3の段階が32%であることから、中位層をいかに上位層へ引き上げるかが課題である。1の段階の児童については、個別指導を充実させ、基礎・基本の定着を図る必要がある。
 ・グラフや資料から特徴や傾向を読み取ることに課題がある。
 ・求め方を説明したり、自分の考えを数式や言葉を使って記述したりすることに課題がある。

【中学校】

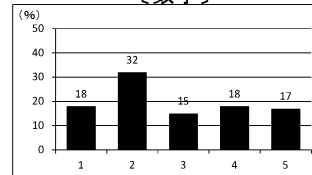
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4～5の段階が32%であることから、上位層が少ない。以下に3段階の生徒を上位層に引き上げるかが課題である。
 ・「話すこと・聞くこと」の領域について、話し合いの話題を捉えたり、自分の考えをもってわかりやすく伝えたりすることに課題がある。
 ・記述式の無解答率が高い。自分の考えをまとめて記述することに課題がある。

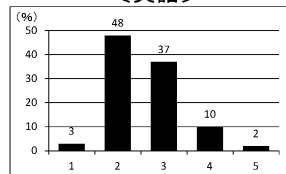
〔数学〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、1～2の段階が50%であることから、まずは基礎・基本の定着に全力を注ぎ、中位層に少しでも引き上げる必要がある。
 ・簡単な連立方程式や簡単な場合の確率を求める問題など、基礎・基本の定着に課題がある。
 ・全体的に無解答率が高めである。問題に粘り強く解くことが課題である。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、2の段階が48%であることから、まずは基礎・基本の定着に全力を注ぎ、中位層に少しでも引き上げる必要がある。3の段階についても37%であることから、上位層への引き上げが課題である。
 ・「読むこと」「書くこと」の領域が、全般的に課題である。特に、自分の考えの記述については、無解答率が非常に高い現状である。読み書きに対する抵抗感をなくすことが課題である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
 ○ 「アクションプラン」や「学力向上Webシステム」の活用計画や実施状況について、指導主事が定期的に学校訪問し、指導・助言を行う。
 ○ 「授業充実の3ポイント」や「天城町授業づくりの目」を基にした授業について、指導主事が町教委訪問や校内研修等で指導・助言を行う。
 ○ 各学校の校内研修において「本調査の分析」として作成・使用した資料について、指導主事に提出してもらったうえで、各校の学力に対する取組への指導・助言を行う。
 ○ 「学力向上Webシステム」や「諸学力調査の過去問題」等、学力がどれだけ定着したかを点検する取組を実施し、その結果を学校と教育委員会と共有する。
 ○ 調査問題を経て、学力向上に向け、より実効性のある取組とは何かを精査し、「アクションプラン」や「各校の学力向上策」に反映させる。
 また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
 【小学校】(国語科) 目的や意図に応じて自分の考えを書かせたり、条件を加えた記述文を普段の授業で取り組ませたりする指導を行う。
 (算数科) グラフや資料の読み取りから共通点や相違点を見い出させる指導の充実を図る。自分の考えを整理して、記述させるよう指導を行う。
 【中学校】(国語科) 授業において話し合いや議論の場を多く設定し、目的に応じて発言させたり、相手の意見を自分の考えと相違させて聞いたりする指導を行う。
 (数学科) 式や図など多様な表現様式を関連させたり、実際の操作を通して理解させたりする指導を行う。基礎・基本の徹底に努めるよう指導を行う。
 (英語科) 英語を聴く機会を充実させる。また、簡単な絵本を読ませたり、簡単な日記を書かせたり、日常的に読み、書きに慣れさせるよう指導を行う。

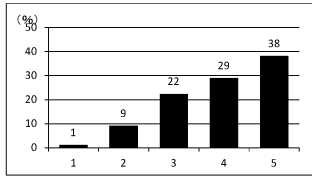
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

伊仙町教育委員会

【小学校】

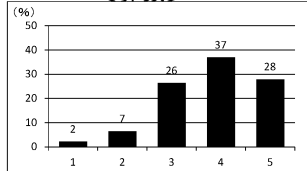
〔国語〕



〈課題〉

・標準偏差が全国より小さく、やや3, 4, 5の段階に集中して分布しており全体として類似の誤答があったことが伺える。
・書くこと、記述式の問題の正答率が低く、自分の考えを整理して表現することに課題がある。

〔算数〕

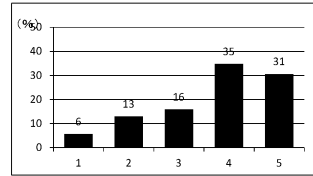


〈課題〉

・5段階での4が多く、標準偏差も全国より低いことから平均に集中しているが、1, 2は合わせて9%おり、ほとんど解けていない児童10名弱を伸ばしていくことが課題である。
・「量と測定」において、式が何を意味するのか、式を読む数学的な考え方について課題がある。

【中学校】

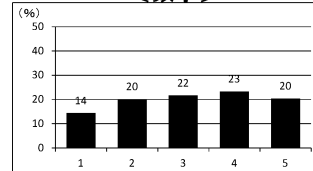
〔国語〕



〈課題〉

・5段階の分布については、平均に近い3が少なく、下位層をどれだけ伸ばしていくかが課題である。
・郵便物の書き方や言語の用法など基本的な言語に関する文化や特質が弱く、生活と結びつけながら国語を学習させていく点に課題がある。

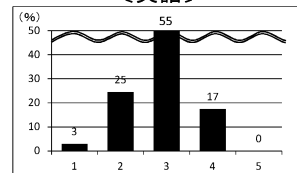
〔数学〕



〈課題〉

・5段階での分布がほぼ同じで、学習集団の理解に大きな差が生まれていることが課題である。
・「最頻値」や「ヒストグラム」など移行に関する内容理解が乏しく、またグラフから読み取る数学的な考え方にも課題がある。

〔英語〕



〈課題〉

・5段階の5の割合が0で1, 2の割合も比較的多いため、全体的な学力向上を図る必要がある。
・記述式の正答率が低く、与えられた情報のに基づき、英文を書くための語彙力と表現力に課題がある。

【改善策】

今後、以下のとおり本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 各学校の結果を分析、検証し課題点と対応策について、各学校で明確に計画を立てさせ、授業改善に向けて研究授業へ指導主事が参加し、適宜学力向上の具体的な指導助言を行う。
- 定着が進んでいない児童生徒に対して、「かごしま学力向上支援Webシステム」や本町独自のStudyPlanetsを活用して、個々への指導の充実を図る取組を進める。そして、その活用状況については各学校ごとに具体的にいつ、何回、どの内容を取り組ませているか、報告を求め確認を行う。
- 鹿児島学力定着度調査の過去問についても、各学校での取組を確認し、また第4学年等の内容で定着が低い単元について、授業改善の指導を行いながらその単元の定着度状況について、報告を求め、補充指導を徹底する。
- また、各教科ごとに以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科)日記指導など、日頃から自分の考えを適切に表現する機会を設け、評価を児童に返すようにする。
(算数科)どうしてそのような式や答えを出したのか、その考えや理由を問う場面を設け、考えを伝え合う場を設定する。

〔中学校〕(国語科)教科書の内容をもとに、生活事象や自らの体験に基づいた考えや疑問を調べたり、伝え合ったりする場面を設定する。
(数学科)特に図や表を用いる活動の際に、その数値が何を表しているのか、またどのように計算したのか説明する場を設ける。
(英語科)これまでの話すこと聞くことを生かして、それを文章で表したり、英文での手紙やりとりなど書くことを重視した体験活動を多く取り入れたりする。

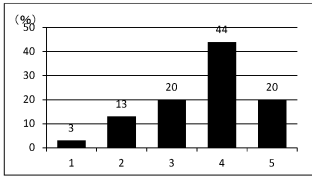
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

和泊町教育委員会

【小学校】

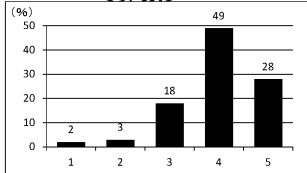
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4、5段階は64%であり、おおむね活用する力がついてきていると言える。
- ・自分の考えをまとめたり、条件を踏まえて書いたりする力が不十分であると言える。

〔算数〕

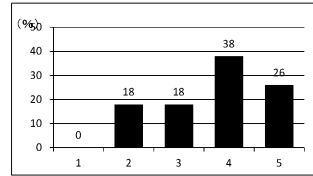


〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、4、5段階は77%であり、1、2段階が5%であることから、全般的に、算数の学力は習熟できていると言える。
- ・学校ごとの習熟状況に差が見られる。
- ・領域別に見ると、数量関係や図形に関する習熟が不十分である。

【中学校】

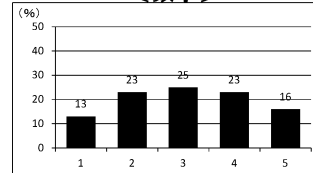
〔国語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、4、5段階は64%である。しかし、2段階も18%と2割近いので、底上げが必要である。
- ・設問別に見ると、相手に分かりやすく説明・表現する力が不十分である。
- ・相手の意図する内容を正確に読み取れていないか、読み取り方が不十分であると言える。

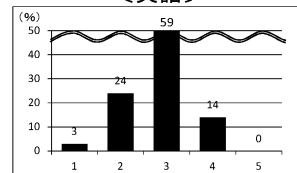
〔数学〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、4、5段階(39%)と1、2段階(36%)がほぼ同割合であり、下位層が多いことが分かる。半数以上が、習熟が不十分であると言える。
- ・設問別に見ると、結論を導き出すための説明する力が不十分であり、全国差が10~20ポイントである。
- ・総合的・発展的に考察したり、数学的結果から理由を解釈する力が大きく下回っている。

〔英語〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から、5段階が0%、4段階が14%であり、習熟が図られていない。
- ・3段階は59%であり、2段階の24%と合わせると83%が中位以下となる。
- ・設問別に見ると、書く力が全国と比較して、20%ほど下回っており、特に書く力が不十分であると言える。

【改善策】

- 今後、以下の事項について、町管理職研修会や学力向上研修、各学校での授業研究会等で重点として取り組んでいく。
- 授業充実の3ポイントの徹底を図る。授業成立の基盤となる児童生徒の課題に向かう関心意欲がある授業づくりに努め、「汗をかく」授業を展開できるようにする。
 - 各種調査の過去問やかごしま学力向上支援Webシステム等の良問を確実に行う。「練習無くては試合に出られない」ということを全職員で再確認し、取り組む。また、一度で終わらせず、できないところはできるまで挑戦させる態度育成も図っていく。
 - 個別指導の時間を確保し、児童生徒の「(一問でも)できた」「分かった」という場面を作っていく。研修時間の改善により、個別指導の時間を生み出す。本町は、小規模校が多いので、少人数を全職員で対応する個別指導体制を実践していく。
- 校種、教科別では以下の具体策を徹底する。
- 〔小学校〕(国語科) 条件や相手の立場を考えた書く活動を実行する。
 - (算数科) 具体的な場面(具体→半具体→抽象)や数学的活動を重視した授業づくりを行う。学習内容と生活とのつながりを考えさせる。
 - 〔中学校〕(国語科) 相手や筆者、作者の主張を、叙述に即してとらえる訓練を行う。答えを導く際の根拠を明確にする。
 - (数学科) 答えに至るまでの考え方や解き方、選択した理由など根拠を明確にした授業づくりを行う。それを導く発問計画を立てる。
 - (英語科) 授業で、必然性のある課題設定を行い、コミュニケーションのよさを味わえる授業づくりに努める。そのためのALT活用に努める。

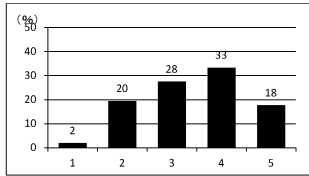
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

知名町教育委員会

【小学校】

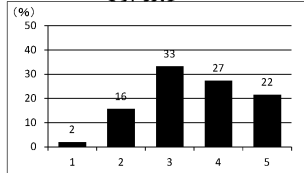
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4・5段階の児童の割合が低く、読解力、表現力ともに育てていく必要がある。
- ・ 観点別では、「書くこと」が低い傾向があり、限られた字数や条件の中で、的確に自分の考えなどを書く練習が必要である。ただし、記述式の問題に対する無答率は改善の傾向が見られる。
- ・ 選択式の正答率が低いことから、文章や言葉の意味を正確に読み取る力を育てる必要がある。

〔算数〕

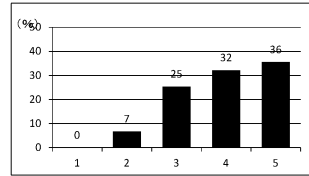


〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、中間層が多く、上位層が少ない。上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 観点別では「数学的な考え方」が低く、計算の答えを導く過程を説明する力や資料の特徴や傾向を読み取る力の育成が必要である。
- ・ 記述式の正答率が低いことから、自分の考えや理由を書く練習が必要である。

【中学校】

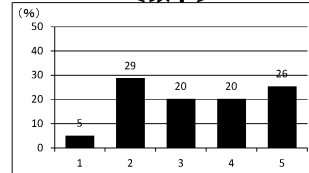
〔国語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、中間層の生徒をどのように上げていくかが課題である。
- ・ 観点別では、「読むこと」が低い傾向があることから、文章を正確に読み取る力を育てる必要がある。また、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持てるように長文を読ませる練習が必要である。

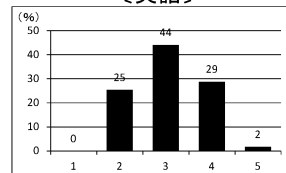
〔数学〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、下位層から上位層まで同じような割合になっている。習熟度別などの学習形態の工夫を行い、生徒の実態に応じた指導法などを用いて、それぞれが力を伸ばせるようにしていく必要がある。
- ・ 観点別では「数学的な考え方」が低いことから、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することができるようにすることが必要である。

〔英語〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、中間層が多く、上位層が少ない。上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- ・ 観点別では「読むこと」が低いことから、日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるようにする必要がある。また、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるように必要である。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
- 「授業充実の3ポイント」を踏まえた質の高い授業の実践のため、各学校の校内研修や公開授業を通して、授業づくりの支援や指導助言を行う。
 - 児童生徒の読み取る力や表現する力を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するように、各学校へ指導を行う。
 - 各学校の作成した「学力向上アクションプラン」に基づいた取組の充実が図られているか、見届けまで確実に進行。また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任会等で指導し、各学校で取り組ませる。

- 〔小学校〕(国語科) 読み取った記述を基に、自分の考えを筋道立てて表現できるようにノートに書かせ、友達に伝える活動を行う。
(算数科) 授業の山場では、説明や意見交流を通して、考えが深められるような活動を行う。また、適用問題に取り組む時間を確保する。

- 〔中学校〕(国語科) 長文から目的に応じた情報を取り出し、与えられた条件の中で表現する活動を行う。
(数学科) 主体的に取り組む態度の育成する。事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する活動を取り入れる。
(英語科) 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話すこと、書くことを通した意見交流の活動を取り入れる。

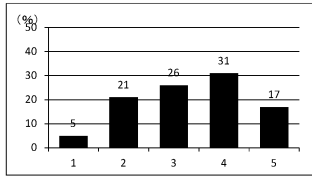
【様式1】

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

与論町教育委員会

【小学校】

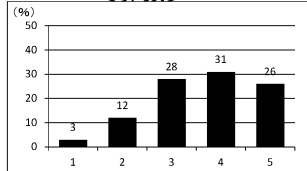
〔国語〕



〈課題〉

・全国と比較し、5段階の4・5段階の割合が全国より低く、3・2段階の割合が全国より高いことから、学力の中間の児童の底上げのための授業改善と個別指導の充実が必要である。
・全国の正答率を下回る問題が14問中9問中あり、その差が10ポイントを超える問題が4問あった。
・記述式ではなく短答式の問題で無答率が10%を超える問題があった。

〔算数〕

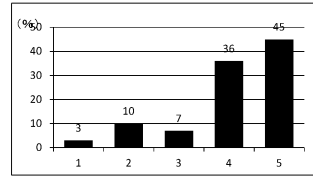


〈課題〉

・全国と比較し、5段階の4・5段階の割合が全国より低く、3・2段階の割合が全国より高いことから、学力の中間の児童の底上げのための授業改善と個別指導の充実が必要である。
・全国の正答率を下回る問題が14問中10問中あり、その差が10ポイントを超える問題が2問あった。

【中学校】

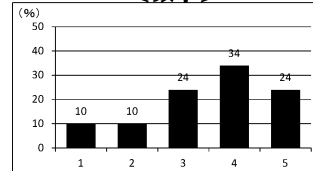
〔国語〕



〈課題〉

・全国と比較し、5段階の割合が全国より大きく上回っているが、2段階の割合が全国より高いことから、学力下位の生徒に対する個別指導の充実が必要である。
・全国の正答率を下回る問題が10問中4問あり、どの問題も「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域であった。

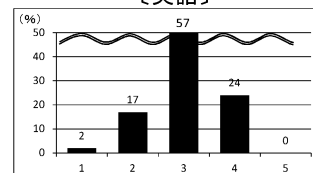
〔数学〕



〈課題〉

・全国の正答率を下回る問題が16問中7問あり、その差が10ポイントを超える問題が1問あった。
・昨年度も正答率の低かった比例・反比例に関する問題の正答率が今年度も低かった。

〔英語〕



〈課題〉

・全国と比較し、第5段階の割合が0であり、第4・5段階の割合が全国より低く、1～3段階の割合が高いことから、全体的な学力向上に向けた授業改善、個別指導の充実が必要である。
・全国の正答率を下回る問題が21問中13問あり、その差が10ポイントを超える問題が5問、全国より29.7ポイントも低い問題があった。
・正答率の低い問題は記述式ではなく、選択式や短答式であり、知識に関する問題であった。

【改善策】

今後、以下に示す事項を本町の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 校種の垣根を越えた授業参観を更に推進し、学習内容や指導方法における連携を深め、授業改善につなげる。
- 各校での学力向上に関する取組の点検・検討・改善を積極的に行う。
- 家庭学習や自主学習(自学ノート)を推進し、学びに向かう力を身に付けるために、学びの場(学ぶ方法)の選択肢を増やしていく。
- 特別支援教育の充実を図り、個に応じた指導の充実を更に図るとともに、個別の学力シートを作成し、経年変化や領域毎の特徴などをつかみ、指導に活かすとともに、児童生徒本人に加え担任(教科担)の自覚を促す。
- 単位時間内での「振り返り」と「習熟」を位置付けた授業改善を推進するとともに、「授業改善」をテーマに指導主事が授業サポートを行う。

また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 「考えを表す言葉」「三角ロジック」「論理的思考・表現」「ダイヤモンド型での振り返り」「接続詞」を活用した授業改善
(算数科) 他者から与えられた複数の資料を活用して課題解決を図る活動の充実

〔中学校〕(国語科) 「考えを表す言葉」「三角ロジック」「論理的思考・表現」「ダイヤモンド型での振り返り」「接続詞」を活用した授業改善
(数学科) 比例・反比例に関する学習における授業改善と、定期テスト以外的小テスト・単元テスト等の実施や個別指導の徹底
(英語科) 知識の習得とコミュニケーション力の向上のために、定期テスト以外的小テスト・単元テスト等の実施や個別指導の徹底